

第二班

小川和也
坂口真理
矢森小映子

「序」「国法」「教法」から探る『武家諫忍記』の作者像
——大聖寺本を中心に——

第二班の研究目的は、「大名家評判記」⁽¹⁾の形成過程と読まれ方を探ることにある。以下、問題意識の所在を簡単に述べておきたい。

これまでの研究史を振り返ると、二〇〇三年の『土芥寇讐記』研究は、現在東京大学史料編纂所と旧浅野図書館にしか所蔵が確認されていない、いわば「点」にすぎない書物の研究であった。二〇〇五年の共同研究では、『武家諫忍記』『武家勸懲記』『諫懲記後正』など多くの大名家評判記の存在が確認されたことにより、その比較作業を通して、書物の諸系統や成立史の流れ、各藩への広がりの中で分析することが可能となった。

これらの研究史をふまえた班の準備討論では、大名家評判記について二つの研究課題が設定された。

第一に、その形成過程の解明である。いつ、誰によって、どのようにこれらの大名家評判記が作成されたのか。それを知るためには、現段階で「起点」⁽²⁾として考えられる『武家諫忍記』の形成過程を明らかにする必要がある。この「起点」をおさえることが、後に続く一群の書物成立史の流れや、系統の異なる諸本の形成過程の解明につながるのではないか。

第二に、大名家評判記の読まれ方に関する考察である。これら諸本の旧蔵者は、外様大名を中心に全国的な広がりを見せているが⁽³⁾、どのように所蔵・使用されてきたのだろうか。なぜ、誰によって、どのように読まれたのか、という読書状況から近世初期の時代像を描くことを試みたい。

《二班共同作業の内容と視角》

①序・国法・教法の翻刻・分析作業

以上の問題を探る手がかりとして注目されるのが、『武家諫忍記』序・国法・教法である。若尾政希氏も指摘されているように、序・国法・教法には作成年代や執筆動機・執筆者の意識など、形成過程に関わる多くの情報が含まれている⁽⁴⁾。その形成過程と読まれ方を探るための基礎作業として、当班ではこれらの

翻刻・分析作業を行った。

使用史料の選定にあたっては、まず教法の条目数などから大まかに①大聖寺本②聖藩本（池田家本も比較的その系統に近い）、③その他諸本の二系統に分類した。そのうえで各系統の中から、今回の翻刻対象として①大聖寺本、②養賢堂本を選択した。大聖寺本は、内容的に早いデータを用いていることが第一班報告でも指摘されており、また史料の状態からも成立時期が早いことが推定される。若尾氏前掲論文においても、他の諸本と異なる点が多いことが指摘されており、比較対象として適当であると判断した。一方、養賢堂本は「天保庚寅」（天保元年）の印があり、比較的新しいと思われる写本である。さらに作業を進める中で、序の表記形式が大聖寺本ともっとも対照的であることも判明した。第二班報告では、まずこの両書を仮に両極において比較を行い、その中で他の諸本がどのように位置づけられるのかを次の課題とした。

なお担当範囲は、序が小川、国法・臣下教法が坂口、主将（人主）教法が矢森である。翻刻は全文掲載したのでご参照いただきたい。さらに各自担当範囲を中心に、前述の問題意識に基づいて比較し、字句・内容・典拠などの分析作業を行った。

②大聖寺藩河野春察という視角

大聖寺本の所蔵経緯を調べる中で、浮かび上がった人物が河野春察である。林羅山に儒学を学び、寛文四年に大聖寺藩に招かれて儒学の講義、さらに藩の軍書蒐集抄写作業に携わったとされるこの人物に関心が集まった。

そこで二班では第二班報告にあたり、「河野春察『武家諫忍記』執筆説」をうちだし、大聖寺藩のおかれた時代状況の一端として、本藩金沢藩と、大聖寺藩と同じく金沢の支藩である富山藩の状況を調べ、記事比較を行った。

聊か大胆なこの仮説は、『武家諫忍記』の形成過程と読まれ方を探り、近世初期の時代像を描き出す、新たな一視角の提起を試みたものだった。つまりこの仮説に基づき、大聖寺藩の河野という一人物を中心におくことで、藩のネットワークや学問状況などを考察し、時代・社会を捉え直すことをめざしている。

ただし今回の報告では未見史料も多く、仮説の実証やこの視角を十分に生かした研究を行うことはできなかった。だが、河野という一儒者が藩内で果たしていた役割は、近世初期の学問・読書状況を考えるうえで非常に興味深いものであり、大聖寺本『武家諫忍記』との関係も含めた検討は、今後の課題として考えている。

以上述べてきたように、二班は大家評判記の形成過程と読まれ方を探る」という問題意識のもと、序・国法・教法の翻刻・実証的分析と、「河野春察『武家諫忍記』執筆説」という仮説からの時代像の考察という二本立てで研究を進めてきた。その成果と残された課題については各論に譲るが、近世初期の学問・読書を含めた社会状況を知る手がかりとして、これら二つの視角をさらに深めていくことは今後の重要な課題であると考えている。

(文責・矢森小映子)

【注】

- (1) 二班では従来の「大名評判記」ではなく、「大家評判記」という名称を用いている。その定義については、小川論文を参照されたい。
- (2) 『堪忍記』との関連については、今後検討を行うこととし、仮に「起点」とおいた。
- (3) 若尾政希「大名評判記」諸本について(同研究代表『大名評判記』の基礎的研究』二〇〇六年)参照。
- (4) 同右論文。

第二班 『武家諫忍記』 「序」 「国法」 「教法」 翻刻史料

- ① 加賀市立図書館聖藩文庫本
- ② 宮城県立図書館養賢堂文庫本

《①加賀市立図書館聖藩文庫本》

《序》

武家諫忍記序

夫我朝者東海中故号日本、凡東西千里ニ不過、南北五百里不足、小国ナリトイヘトモ、開闢ヨリ以來、聖主道ヒラキ今ニ至マテ其シルシ明ナリ。是則宗廟天照太神一切之神祇之教誠神力威光ノ力ニハ、唐土天竺之威徳モ及事アタワス、誠ニ礼儀ヲ守テ豊饒目出度国ナリ。所謂五畿七道ヲ以表五常立六十余州之分八統六十四卦ナリ。此国開闢湖濠漂警猶遊浮水上也。干時天地之中生一切状如葦牙便化為神号国常立尊ト云々。是ヨリ六代之神者陽神也。但泥土瓊尊沙土瓊尊大戸之間近尊面道尊埋根尊、是三神合六神雖男女之形無夫婦之義、又不和隱所伊弉曲尊於是隱陽始合為夫婦産ハ湖海川草木日月等神番地番五行、御子天照大神是地神之始大日灵謂大日灵神亦号天照大日灵虫曰鸕鷀草造不合禱マテ、五代人王始神武帝日本末国々所々之分々ナク万国一体ナルヲ、神武御子綏諸天皇山陽ヲ始踏、三十二代用明帝五畿七道定、四十二代文武天皇六十余州ヲ分、然テ此国尊モテアソフ事、神世ヨリ神歌ナシテ和歌ヲ業トスル。唐土之詩文ニヒトシ、サレトモ往昔ハ文字ノ員モ不定シテ、素戔之尊至出雲国八雲立詠始テ三十一文字ト詠今ニ絶其徳聖教戒之端、或動天地感鬼神化人倫君臣父子夫婦兄弟朋友礼義ヲ正其高事云ニタラス。誠悟奇神妙之事ハ聖門之不語トコロナリトイヘ共、灵赫自然ノ理黃鳥秋蝉并ノ声各發歌謠人之心ヲ和ルヲ以德義、其故ニ名テ倭国ト云。国之政コト王帝、或武家ニ政道スル事、度々ニシテ入乱ス。テ時文祿年中、豊臣秀吉公武勇スキル、ニヨツテ、天下ノ強敵ヲ退治シテ、既ニ朝鮮国マテ征伐シ、是ヨリ四海一統シテ八嶋之外マテモ悉ク治ル。慶長年中ニ秀吉薨シテ、息子・秀頼公天下ヲ治タマヘ共、名将賢將ニ不有、愚シテ天下ノ政道不正、平々諸人はヲ危。然徳川家康公清和天皇十五代之後胤、新田姓源家重征夷大将軍補政大臣從一位、行年七十、順次郎三郎清康、其子四郎忠之御子、生國參河、当家御伝記、或御平語、或記録ニ詳也、仍略之。秀吉秀頼二代之御ヨシミ有、殊秀頼ヲ御智子ニナサル、ホトノ事ナレ、一入御愛心有テ常々不義ノ行跡ヲ諫給トイヘ共、サラニ不被用。アマツサヘ諸宰人ヲ抱ヘ、御敵トナツテ籠城有。是ニモ様々御異見ナサル。拙人ノアサマシサハ愚者之諫ヲ用、天下之乱トナツテステニ乙卯ノ年江府ヲ立給ヒ、大坂發向ヲハシテ、同年五月七日

秀頼切腹有、其外軍士卒士等コトクク討セラレル、記録ニ具、改略之是ヨリシテ天下国家治、太平之御世トナツテ政道宜ク、人民安樂セリ。誠喜悅ノ眉ヲ開ク。凡当家ノ御世トナツテ、及五十年日々夜々武運繁榮、天下古今其例マレ也。偏大権現ノ威徳広大成カ故也。然レハ其例ヲ定、大樹主守護トシテ高家大家国主郡主ニ至ルマテ、或東西入替、或父子カハルノニ參勤法儀イササカ違ヒナシ。国所々ニ不知ヲナス事、古法ノ式旧事之礼慮詳ナリ。然レ共国司ノ制法、郡主ノ政道ハ、其違多シトニヤ。タトヘハ自ラ戈ヲ以治臣下ノ制禁ヲ加ヘテ、猶以順道不同有耳也。所謂永々浪人ニテ身上為稼事、便ヲ求テ国々所々徘徊シテ其家之御作法等、荒増聞及テ記畢。凡我諸国ニ至ル事始テ九州筑前福岡ニ暫ク滞留スル内ニ、肥後熊本肥前又薩摩鹿兒島ニ行、中国ヲ不殘四国ヘメクリ、山陰道ヨリ北陸道越前加賀ニ一ヶ年在テ越後路ニカ、リ、出羽奥州或米沢南部或仙台ニ至ル。コレヨリ江戸ニカヘル。其折ニマタ所々城下ヘ廻来ル。大概日本国中ニ不到ト云事ナシ。年月ヲ得事四年三月也。其折柄思出テ記之。然レ共、国所ノ用ナキニハ不出、故ニ如此国所々ハ不及見。依テ聞伝マ、也。又国主郡主之行跡モ及見ニハアラス。タ、聞伝テコノ書ニノセタレハ不分明、且又是ト不可善惡ノ行ハ、今日不義ニシテ明日仁有人有テ著トナリ給。主将モ多前ニ前有ツテ、後ニ誹トナル人多シ。タ、ソレノ唱ヲ聞、或ハ見ヨヒ、或国所々ノ仕置等ヲ考ヘテ記モ、兼好カ言葉ニ云コトク、名テ聞ヨリヤカテ面カケハ推ハカラル、心地スルヲ見時ハ、兼思ヒツルマ、顔シタルコソナケレ。昔物語ヲ聞ニモノ比之人家ノソコノ程ニテソ有ラント覺、皆如此顔サマ其器量人ニスクレタレトモ、心無実之人又器量不具ナレ共、心直ニシテ憐人、或文武ヲ学テ義不正人、此等ハ誦書博學ト云計ニテ、物又似セ物ト云ナルヘシ。又不学ニシテ道理ヲ不背法ヲ正スル人有。内心愚拙シテ外ノ權威有人、或文道ヲ甚ニシテ、武道不好人モ有。武ヲ專ニタシナム人モ多サレハ、実以云ニコレヲ善トシ、カレヲ非トイハン。又ハ聰明叡智ナレトモ細少ヲ不知、其行不同ニシテ一方ナラス。諸ヲ兼タルハマレナルヘシ。今嘗レノ有人ト云ハ尾州義直。コレハ文武ノ譽レノ有人ト云ニ不有。常ノ行ニシテ大悠有ツテ慈悲有リ。其氣ノ大儀ヲ譽ルトミヘタリ。第二紀州頼宣コレハ文武ノ徳厚シテ、諸罰正生得利根威義有テ不僑ヲ以譽スル。又水戸之光国ハ若將ナレ共、ヨク学シテ才智思慮深シ。コレヲ以譽ト云ナリ。或人松平大千代是モ才智有武芸ノ心サシ厚憐有リ。其外ニハ、松平光久、榊原氏忠次、松浦鎮信、石川昌勝、安藤氏重貞、加藤明友、何モ世俗誉有諸將ナリ。其外ニ誉有モ又多シ。何モ名之コトク其善ト唱ル事ノ考ヘ見ルニ、凡十之品ヲ以其内六之善ヲ以譽トス。又ソシリト云ハ、右之十之善トイヘ共、三ツノ惡ヲ以非ト云。其惡ニ品有。十之惡有トモ一ツ善有ランニ善ニヨツテ十之惡ハマタ善トナルヘシ。十之善ニツノ惡ヲ以又惡ト云ヘシ。且又惡行跡モナク善之行跡モナカランニハ、善モ誹モナカラマシ。其行多ハ本ツクトコロヲ以誹云善ト云ナリ。トニモ角ニモ欲スクナキ人ト憐太ヒ成人直在人数多キ

主將ハ誓ノ第一ナルヘシ。猶是等次第ハ本書ニ詳也。

一、諸国地頭人年貢所納其限有。然トイヘ共、国々所々ノ地ニヨツテ其違多シ。又ハ地頭人ノ品替有。タトヘハ下田拔群ニ上田ノ所ハ地狭シトイヘ共、高二ノホル。

此ワサ本書ニ詳ナリ。奥州出羽之國ハ空地多クシテ人民スクナキ事、其外国々土地之広狭、人民多少、又五畿内并辺國ハ上田ニシテ米コクノ高二越テ多シ。猶此品々家々国々所々ノ覺マウケタル品ヲ詳ニ書タリ。

一、諸国諸法度之事天下ノ制法ヲ以雖治之、私之家法禁制多シ。或日本書之表ヲ以テ考ヘ可知。主トシテ奪ヒ臣トシテ欲心在主ハ潔白ナレドモ、郡代々官等之役人私有力故ニ違多シ。サルニヨツテ荒方見及聞タルヲ記畢。

一、緞大身タリトイヘトモ、或ハ家督タテサルハ不記。或末弟末子タルハ最コレヲ略ス。外ニ知行領分之被下置記モノナリ。

一、国々方角城付在所方ノ地形等荒増記トイヘ共、或図有或国分ニ具ニ記 (不詳) 故ニタイカイヲ以計耳ナリ。

一家臣ノ仕置ノ善惡、是ヲ記ストイヘトモコトクハ不詳。故ニ荒方ヲ記ナリ。

《国法》

日本國中高付方角山海河田畠生物之品々善惡城付并ニ今高ハ 御當家古高ハ秀吉公之檢地次第委細ニ記之

五畿内五ヶ國

一、山城、南北遠ク東西近シ、西北東ハ山ナリ、諸生物吉、土地大上々

古高貳拾貳萬五千二百石

今高貳拾壹萬五千二百石

禁裏御臺所料公家方寺社領

御藏入淀領其外入相甚多シ

一、大和、南北遠ク東西近シ、山河多シ、諸物吉、土地大上々

古高四拾四萬八千九百石

今高四拾壹萬三千石余

寺社方郡山高取宇多領公家方御藏入多其外入相甚多シ本書ニ委ク記之

一、河内、南北遠ク東西近シ、東西ハ山也、川池多シ、諸生物吉、土所上々

古高貳拾四萬貳千石余

今高三拾萬八千八石

寺社少公家領御藏入多南池尻淀領其外入相甚多シ

一、和泉、南北遠ク東西近シ、海西ニ在、諸生物吉、就中此國之米直段吉、土地上々

古高拾四萬五百石

今高拾三萬八千七百石

御藏入岸和田領アリ

一、攝津、東西遠ク南北近シ、西ハ海也、山河多シ、諸生物吉、土所上々

古高三拾五萬六千七拾石

今高貳拾九萬九百石

公家寺社領御藏入尼崎高槻三田豊嶋其外入相甚多シ

東海道十五ヶ國

一、伊賀、四方之國、山多ク竹木多シ、米穀生吉、土地上也

高九萬五千五百石 上野之城付

但シ勢州阿野津同領也寺社少在

一、伊勢、南北遠ク東西近シ、西北山也、諸生物吉、土所上也

高五拾六萬七千五百石

一、志摩、東西遠ク南北近ク小國也、東北西海、亦山アリ、山海之生物多シ

古高壹萬七千八百五拾石

今高壹萬七千石余

悉ク勢州鳥羽同領ナリ

一、尾張、四方之國、西海東ハ山也、田畠多ク諸生物吉、土地上也

古高五拾七萬千七百三拾石

今高四拾八萬八千四拾石余

悉ク名護屋付 寺社方少在

一、參河、東西遠南北近シ、西ハ海也、山川多シ、諸生物中之上、土地上々。

古高二十九萬七千石余

今高三拾五萬石余

吉田岡崎蒨屋ノ城付 御藏入其外入相甚多ク名古屋付并寺社少有

一、遠江、東西遠ク六形ハ四方之國也、東南海山川有、田地多、諸生物吉、土地中

之上也

古高貳拾八萬石余

今高貳拾五萬五千六百拾石

御蔵入多シ濱松横須加其外入相甚多ク寺社方少ナリ

駿河、東西遠ク南北近シ、生物吉出来早シ

古高拾五萬石余

今高拾七萬二千石余

御蔵入寺社少シ田中領其外入相多シ

甲斐、四方之小國、四方ニ山アリ、下国也、諸生物品多シ、サレ共田畠ハ少シ

古高貳拾貳萬七千六百石

今高貳拾四萬貳千石余

御蔵入郡内領其外入相多シ

伊豆、南北遠東西近シ、西南ハ海也、山川アリ、畠多、諸生物不冝、土地下也

古高六萬九千八百三十拾石

今高七萬九千三百石余

御蔵入寺社少アリ

相模、四方之國、南ハ海西ハ山ナリ、河有、諸生物ヨケレ共少シ、土地中之上

也

古高拾九萬四千二百石

今高拾九萬四千五百石

御蔵入小田原領并寺社方其外入相甚多シ

武蔵、四方之大国、東ニ海アリ、山無、田畠廣ク諸生物吉、土地中也

古高六拾六萬七千五百石

今高八拾萬石余

御蔵入岩付河越忍領寺社方其外入相甚多シ

安房、東西遠ク南北近シ、西北南海、亦山アリ、河原沼多、生物不冝、小國、土地中ナリ

古高四萬五千四拾石

今高九萬九千七百石余

御蔵入東條領其外入相多シ

上総、四方之小國、東西海山アリ、田畠多シトイヘトモ生物ハ中抵也、土地又

中ナリ

今高三拾七萬八千八百九拾石

御蔵入佐貫領其外寺社少入相多シ

下総、北南遠ク東西近シ、西ハ海也、川在テ山ナシ、田畠多、生物吉、土地中

也

古高三拾九萬三千石余

今高三拾九萬四千貳百石

御蔵入寺社方少佐倉古河関宿領其外入相甚多シ

一、常陸、大形四方也、但シ南北少遠シ、土地中、大國也、東海北山川多、生物吉

古高五拾三萬石余

今高七拾五萬三千六百石

寺社方少水戸笠間土浦宍戸下館領河越付少古河付其外入相甚

多

東山道八ヶ国

一、近江、凡四方之國ナリ、国之中湖水アリ、四方山川、田畠共ニ多シ、諸生物ヨ

ク大上之地ナリ

古高七拾七萬五千三百九拾石

今高八拾三萬貳千貳拾石

御蔵入多シ彦根膳所領公家方寺社其外入相甚多シ

一、美濃、東西遠シ、南北近ク曲タル国、山川多、田畠廣ク生物吉、土地上ナリ

古高五拾四萬石

今高五拾八萬五千五百貳十三石

御蔵入寺社領岩村加納苗木大垣之城付名護屋付并八幡高州麻

田其外入相多シ

一、飛騨、東西遠ク南北少近シ、山川在、材木多ク田畠少シ、生物不冝、土地中ナ

リ

古高三萬八千石余

今高三萬八千七百六拾四石

一、信濃、東西遠ク南北近シ、大国、畠多田方少シ、生物不冝、土地中ノ下也

悉ク高山領ナリ

古高四拾萬八千四百五拾石

今高五拾四万七千三百六拾石

小室松城上田飯山松本諏訪高遠飯田寺社領其外入相多ク御蔵

入アリ

一、上野、東西遠ク南北近シ、山川アリ、田畠多シ、生物不冝、土地中也

古高四拾九萬六千三百石

今高四拾六萬八千石余

館林高崎前橋沼田其外入相甚多シ御蔵入アリ

一、下野、四方之丸キ国、土地中也、田畠多ク生物吉

古高三拾七萬四千八拾石

今高四拾六萬四千石余アリ

宇都宮廬山太田原壬生鹿沼足利黒羽寺社方少其外入相多シ

、陸奥、東西遠ク南北近シ、土地中、大國タルニ依テ所々違ヒ多シ、山海川有、

田島廣ク諸生物中ナリ

古高百六拾七萬二千四百石余

今高百八拾貳萬九千石余有

御藏入寺社少仙臺棚倉白河若松三春二本松郡山白石米澤中村

盛岡津輕三戸其外入相少

、出羽、南北遠ク東西近シ、西ニ海アリ、山川田島多、生物中、土地下也

古高三拾壹萬八千九拾五石

今高八拾七萬石余

山形新庄鶴岡本庄窪田大野勝山大亀田沢其外入相多シ

北陸道七ヶ國

、若狭、東西遠ク南北近シ、北ニ海有、生物宜ニハ非ス、亦不悪、土地中之上ナ

リ

古高八萬五千石余

今高八萬五千九拾石

寺社少小濱領ナリ

、越前、東西少遠ク南北近シ、大形四方之國ナリ、西北海南ニ山河多シ、生物不

宜、土地中也

古高四拾九萬千六百拾石

今高六拾八萬貳千六百石余

福井丸岡大野府中小濱付少シ其外入相少アリ

、加賀、南北少遠ク東西近シ、西ハ海、田島多、生物吉ニハ非ス、土地中也

古高三拾五萬五千五百石

今高四拾四萬貳千五百石余

悉ク金澤付大聖寺領共ニ有

、能登、南北遠ク東西近シ、西北東海アリ、土地中、生物不足ス

古高貳拾壹萬石

今高貳拾萬六千八百九拾石

悉ク金沢付

、越中、東西遠ク南北近シ、北ハ海也、山川多シ、生物不宜、土地下也

古高三拾八萬三百石

今高五拾三萬六千三百石

悉ク金澤付

一、越後、東西遠ク南北近シ、西北山川多シ、大國、生物不宜シテヲソシ、土地下、

甚夕寒國ナリ

古高三拾九萬石七百七拾石

今高四拾五萬六拾石余

柴田長岡村上本庄其外入相多シ

一、佐渡、四方ノ小國ニテ四方海也、生物不足、最下國ナリ

古高老萬七千四拾石

今高貳萬五百九拾石

御藏入

山陰道八ヶ國

一、丹波、四方之國、南北へ少遠シ、山川多ク土地中ナリ、但シ關東方之上所モ同

シ、生物品々在トイへ共米穀少シ

古高貳拾六萬三千八百石余

今高貳拾八萬三百七拾石余在

福知山笹山龜山綾部山家其外入相多ク御藏入公家方寺社領ア

リ

一、丹後、東西遠ク南北近シ、北ハ海也、山川アリ、生物吉、土地中也

古高拾貳萬三千石

今高拾貳萬三千七百七拾石

宮津田邊ノ城付寺社少シアリ

一、但馬、四方之國、北ハ海アリ、山川多シ、生物大形吉、土地中

也

古高拾壹萬四千貳百三拾石

今高拾貳萬三千九百六拾石

御藏入其外出石領入相アリ

一、因幡、四方之國、北ハ海也、山河有、生物不宜、土地中之下也

古高八萬八千五百石

今高拾三萬千六百四拾石

悉ク鳥取付

一、伯耆、東西遠ク南北近ク北西ニ海有、山川多ク土地中、生物不

宜

古高拾萬九千四拾七石
今高拾七萬五千三十石

米子ノ城付但シ鳥取同領ナリ

、出雲、四方之國、入海方角不詳ナリ、寒國故生物ヲシ、土地中

古高拾八萬六千六百五拾石

今高貳拾貳萬三千四百七拾石

悉ク松江領ナリ

、石見、東西遠ク南北近シ、北ハ海南ハ山ナリ、河在、中之國、土地ハ下ナリ、生物不亘

古高拾萬千七百七拾石

今高拾三萬七千三百七十石

津和野濱田領并 御蔵入少シ

、隱岐、四方ニ海船ヲタシ、生物不亘、土地下ナリ

古高四千九百八十石

今高老萬千八百石余

松江之領主預リ

山陽道八ヶ國

、播磨、四方之國、南ニ海アリ、山川多シ、諸生物能、土地上タ

古高三拾五萬八千石余

今高五拾二萬千三百石

御蔵入姫路明石赤穂山崎林田新宮宍粟小野寺社御蔵入其外入相甚多シ

、美作、東西遠ク南北近シ、山川在、生物大カタナレ共土地ハ中也

古高拾八萬六千七拾七石

今高貳十貳萬七千七百石

津山領御蔵入アリ

、備前、四方之國、南ニ海有、山川多、生物吉早シ、土地上也

古高貳拾二萬千七百石

今高貳拾八萬六千貳百石

岡山領寺社少シアリ

、備中、南北少遠ク東西近シ、南ニ海アリ、山川多ク土地上也

古高拾七萬六千九百二拾八石

今高貳拾貳萬七千八百石

松山庭瀨付其外入相多シ

一、備後、大形四方之國、南ニ海山アリ、北ニ河多、土地中、生物吉

古高拾八萬六千五百拾石

今高貳拾三萬八千八百三拾石

福山三善領三原付

一、安藝、東西遠ク南北近シ、南ニ山川アリ、生物吉、土所上也

古高拾九萬四千五拾石余

今高貳拾五萬九千三百八拾石

悉ク廣嶋領寺社領少アリ

一、周防、東西遠ク南北近シ、海アリ山在、生物中、土地又中ナリ

古高拾六萬七千八百貳拾石

今高拾六萬四千四百四拾石也

悉ク萩領

一、長門、東西遠ク西北南ハ海也、生物吉、中之國、所ハ上ナリ、悉ク萩付

北海道六ヶ國

一、紀伊、四方之國、西南東ハ海ナリ、山多河有、諸生物吉、大上ノ地ナリ

古高三拾四萬三千五百五拾石

今高三拾九萬五千貳百四拾石

悉ク和歌山付寺社方少在

一、淡路、南北遠ク東西近シ、四方海也、山川少、生物吉、土地中之上ナリ

古高六萬貳千四百四拾石

今高六萬三千六百貳拾石

悉ク酒本ノ城付但シ渭津同領也

一、阿波、東西遠ク南北近シ、西南海也、山河多シ、諸生物吉、上ノ土地

古高拾八萬三千五百石

今高拾八萬六千七百石

悉ク渭津領寺社方少シアリ

一、讃岐、東西遠ク扇之ナリ、南東山アリ、北ハ海也、河少シ、生物ハ中、土地上ナリ。

古高拾七萬千八百拾石

今高貳拾三萬六千貳百石

高松丸龜領寺社少在

一、伊豫、東西遠ク讃州ニ同キ國ナリ、西北ハ海アリ、山川多、田島廣、生物早ク土地上ナリ

古高三拾八万六千六百四拾石
今高三拾八萬七千貳百石

宇和嶋松山大洲今治付其外寺社方少シ

土佐、東西遠ク南北近シ、南ニ海アリ、山川多ク生物吉、土地上ナリ

古高拾九萬八千石余

今高貳拾二万貳千六百二十石

悉ク高知付

西海道九ヶ國

筑前、大形四方、南西海山アリ、土地中之上、生物吉

古高三拾六万五千七百八拾石

今高五拾貳萬二千五百石

秋月領アリ

筑後、西南山河、四方之國、土地中之上、生物吉

古高貳拾七万五千石余

今高三拾六万六千石余

久留米柳川今山領アリ

豊前、南北遠、南東海山在、中之國、土地

古高二拾八万石余

今高三拾二萬千六百石

小倉御蔵入中津領アリ

豊後、大形四方之國、東西南ニ廻行海アリ、山川多シ、生物大形也、土地中抵

ナリ

古高四拾壹萬八千石余

今高四拾壹萬八千三百石

村内竹田日出質本佐伯 森并御蔵入其外入相アリ

肥前、南北遠ク入海多、如嶋之山川在、悉ク量リカタシ

古高三拾九萬八千三百拾石

今高五拾六万四千四百石余有

佐賀唐津嶋原平戸大村深江其外入相アリ

肥後、南北遠ク東西近シ、海有山川多ク大國、生物吉、土地中ノ上ナリ

古高三拾四万千貳百石

今高五拾七萬貳千九百石

熊本領ナリ八代求麻富岡

一、日向、肥後ニ同シキ國、土地下ナリ

古高拾貳万八百拾石

今高貳拾八萬五千五百石

肥部其外入相アリ

一、大隅、南北遠ク東西近シ、南ハ海河有、土地下、小國也

古高拾七萬貳千石余

今高拾七万五千石

鹿兒嶋付

一、薩摩、大隅ニ同キ國也、南西ニ海在、生物不冝、土地下也

古高貳拾一萬三千四百八拾石

今高三拾壹万五千貳百石

鹿兒嶋付

一、老岐、肥前西南ニ有、海中ニテ小國也

高老万五千九百八拾石

一、對馬、四方海有、又山多シ、生物不足、土地下也

高老萬五千九百八拾石

府中領

《教法》

武家教法之卷

主將嗜之事

一、天下國家之司タラン人常ニ心得可有事。

先文武弓馬ノ道ヲ油断不可有。タトヒ幼少タリト云トモ、家業ノ教ヲ寢覺食終マテ不忘、内外トモニ心ヲ尽テ天下國家ノ安全ヲ可計。文ヲ学テ智ヲ明ニシ、國家ノ政事少モ無私邪佞肝曲ヲソイテ家士土民憐可有。武ヲ以國家ノ乱ヲシツメ、謀ヲ以能治ルハ主將ノ道理ヲ明テ成敗ヲナス故ナリ。古明君良將ハ安キニ居テ危ヲ不忘、己ヲカヘリ見テ欲ヲ省、直ヲ挙テ曲ヲシリソケ、四民ヲ恵道ヲ治テ百姓ヲ撫テ、内外其所ヲ得テ上下化ニ隨風儀淳朴ニシテ令命行堪タリ。或衆人はニ不随トイヘトモ不忿權ノ不最却テ墜落ノ恐有。或國ニ道ナキトモ自ヨリツ、シミ有ユヘニ其國安全ナリ。爰以案スルニ、文武ノ二ヲ学スンハ此道理ヲシル事不可有。文者以左武者以右手足ノコトシトナリ。古ノ教ニモ智仁勇ノ三徳ナクンハ國家治ル事アラシ。然祥ニ此道理ヲ知ル事ハヨク子ニシ成力ヲシ。曰道ヲ聞人文字ヲ学スル事不可有。心ニ五常ヲ学ンテ可行。世ニ広学ノ

主將有トイヘトモ實ノ道スクナシ。是則文字ニカ、ハツテ理ニウトキ故ナリ。仁義礼智信ノ教ハ事スクナウシテ理広学ナリ。所謂広大ニシテ理ヲ外ニ求ルニアラス。古ノ聖賢ノ教ニモ此五倫ノ專ト説宣。人生テ東西ノ着別不分明ナレトモコノ五ツハ兼備モノナリシカリトイヘトモ、愚者ハ實ノ道理ヲ不知故ニヤ、モスレハ不義不正アリ。タトモ、又外ニ理ヲ分明ナリトモ行跡ニ私有事耳ナリ。實徳有人ハ外之理雖、關心實備有カユヘニ、イツノホトニハ雲中開テ日之照コトシ。曰外物尽心徳不明、是愚者之行ナリ。然ニ其五常ヲ守シルト云ハ先仁、道ヲ本トシ、此仁之道理アラカク宣ルニ、夫仁者ハ徳貴少モ不違不偽愛敬人身之惡トミルトコロヲ退、人之善行有ヲ自之上ニ鑑トシ、善之進我欲邪正肝倭ヲ誠已治人ヲ治端トナラン事ヲ常ニ思慮有ツテ、道ヲ道トシ理ヲ理トシ白刃ニ走コトシ。故仁者人ノ心ナリト云ナリ。人身ハ万物之上ニヨルユヘ二人ト生テ仁ナキ者ハアラシ。モシアヤマツテ道ニ違ハ不仁ナリ。不仁成人ハ木竹ニヒトシ、蓋禽獸ノ類ニサヘ情憐ハ有モノソ。其イハレ虎狼ハ母ノ乳ヲ飢時ニ必ヒサヲツキヤルトナリ。カハウソト云禽魚ヲ取ツテ天ニ祭テ後己カ養ト云。鳥モ巢ニ有時ハ母ニ養ル、巢ヲイテテ母鳥ヲ養トナリ。鳩ハ木ニヤトル時枝三ツ下ニ其子ヲルト云ヘリ。如此モノサヘ不覺シラネトモ自然ト業ハヤサシキトニヤ。人輪ニヲイテヤ不義不行ノ動天道ヲ不恐我意ニイカスル人是多シ。日月懸シタモウコトクニ、貴卑高下ノ着別モナク平等ナル所ヲサシテ仁ノ端ト云ナリ。孟子曰仁者無不愛也。急親賢ノ為務ト云ヘリ。義トハ宜ト云字ノ心ナリ。万物ノ事ヲ能一ツ、トコトハリテ、ソレ、ニ時ニ随ヒテヨロシキヲ云。人欲ノ私ヲマシヘスシテ義理ヲ正シ法ヲ守ヲ以義ノ人ト云ナリ。或我心ニアタハストモ品明ナル、則是ヲウケル。又心ニハアタウトイヘトモ道理ニアタラサルヲウケス。又ウケヘキモノヲウケサルモ不義ニシテ天ノ惡トコロナリ。道理ニ不有モノヲウケテ富盛ナレハトテ終ニ其財亡事安シ。曰不義而富且貴於如浮雲。貧賤富貴ハ皆天命也。誠ニ義ヲ不守人ハ生テモ詮ナシ。君子義以為上、君子有勇而無義為乱、小人有勇無義為盜ト云テ君子タル人ハ義理ヲ正スル事第一、若義一字ニ欠ナハ必乱ヲナスモトヒ、小人義ヲシラネハ盜トナル。義ヲシル人ハ死ヘキトキニ死ス。生ヘキニモ生。是等ハ死テ譽有生テ嘲有。兵法曰、能戰モノハ死ス。ニクルモノハ生ト云カコトシ。義有生死ノ分別有ル故ニ少モ世ノ嘲ヲウケス。然ニ不義ノモノシハサハ生死ノ品ヲ曾テシラ又故ニ、生テ恥トナリ死テ嘲トナルソト二角ニ制法不乱ヲ以義ト云ナリ。武將專可用義ナリ。

トヘハ往ニモ帰ニモ立ニモ座スルニモ寢ニモ覺ルニモ食スルニモ、或ハ君使臣以礼臣事君以忠ト云テ、君タル人臣下ヲ使。礼義法度ヲ正シクシテツカヘハ、臣モ又君ニ忠ヲツクス。礼ト云モノナクハ又仁義ノ道ヲモ不行ナリ。朱文公礼ノ本在敬トヨク敬ヲ以人ヲ尊愛在ナラハ道理ニアタル耳ナリ。智ト云ハ物々品々ヲ心ニ、智ト云ハ事品ヲ能辨知ツテ、ソレニ思慮ヲメクラシ節ニソソシテモ始終ヘンセサルヲ以智者ト云リ。故ニ智ト云ハシリマウスト云心ナリ。トヘハ赤子タレトモ、サムサヒタルサハ教ヘサレトモ、知テナクハオノツカラ智ナリ。目ニテ見耳ニテ聞テ其分ヲ知ヲ以本心知ナリ。見聞テモ不分明ヲハ智ト云カクシ。善惡ノ道ヲ辨テ善ヲトツテ惡ヲハフクヲ以智者ト云ナリ。古ノ智者人ノ行見聞ニ明鑑ノクモラサルカコトシ。前後本末トモニ不違ハ、是少キトコロモ心ヲツケテテロソカナランヤウニ計力故ナリ。或天下ヲ治ル主人ハ天下ノ万民之品業ヲ考ヘ不知ハナリカタシ。或国郡ノ治ル事モサノコトシ故天下国家ヲサムルハ水ノ流ノコトシ。始ノ行ト言ノ業ヲ終マテ同如ニ行ハ、是始ヨリ善惡ヲ分テ其ノヨキトコロヲ以行ユヘナリ。曰智者不惑是非ノ二ツヲ分別スルカ故ニ、何事ニテモ惑ト云コトハ、カリニモナキコトナリ。無智ノモノハ前後ノ思慮ナキニヨツテ、末ニテ禍トナル事ヲシラスシテ其当分ノヤウタストコロニ心ヲカクル故ニ終ニ難儀ニ及。是愚ニシテ惑也。タトヘ又身上ニ禍出来ルトイヘトモ心ニウツサス後悔ヲナサス。小人ハ今更始テ来ルヤウニ思テ驚悔事耳ナリ。智ナクハ天下国家郡ノ司トハナリカタシ。

信者マコトナリ。少モ偽リナク定ヌル理ナリ。信ナクハ国郡ヲ乱其身ヲ亡事無疑故ニ一言ヲ口ヨリ外ニ云出ス事モソツシニ云ヘカラス。カリソメナカラモソノ言葉違有時ハ何事モ不實ノ人之司トハナリカタシ。若一言ノ違有、則事急ナルトイヘトモ、必士卒是不用故君子ニ言ナシトテ、一言云出スヨリシテ其謂ムナシカラサルナリ。若云イタシタル事有ハ是非ニ其ムネニマカスヘシ。曰於文人言為信、言而不信非為人。タトヘハ一年之内ニ春夏秋冬ノ約不違ヲ信ト云ナリ。右ノ五常ヲ学シル人ハ天下ノ事業ヲコト々クシル事ナリ。然ハ先此理ヲ早悟明德アキラムヘシ。

一、武道ハ文ノ末ニシテ又一道ナリ。故ヘニ前ニ云コトク文武者ハナレヌトコロナリ。武家ニ生テハモツハラ此道ヲ学テ天下国家安全ヲ願トコロ然ナリ。愚案曰、武將諸士ハ武ヲ以先トスヘシ。其イハレハ乱タルヲ治ルハ武ナリ。治テ又政事正スルハ文ナリ。曰武ハ乱ヲ平、文ハ治国ヲ平スル。是先後ノ違ニ非ス。左右ヲ以テ行ヲ能調道理ナリ。武トシテ敵ヲ討亡ニ不有義ヲ以戰礼以討。然則ハ戰勝負ハ非義礼ヲ以負シ義礼正ヲ以勝ト云ナリ。兵法曰非義礼トキハ不戰トナリ。是聖賢之教トコロナリ。是五常ノ道ト別ニシテ一道ナリ。曰武略智略計略軍法ト云々。武略ト云ハ我城取賢固構陣能取數備ヲ能立、人数之手組

手分其作法定リタルヲ云ナリ。智略ト云ハ能將乱タル敵ヲ真ニシテ位ヲ以責、敵ヲサタ々セ働トコロヲ見テ半途ヲ擊、伏兵ヲ以是ヲ殺惑、歸伏ノ士ヲ招テ味方ヲ人其謀ヲ聞取テ敵ヲ亡スヲ智略ト云。計略ハ敵國へ常々忍ヲ入テ諸道ノ敵ニシテ人民是ニトツクカトツカサルカヲ聞、邪義無道成ニヨツテ諸民是恨ウトムカノ品ヲ兼テ聞ヨリ自國ヲ賢固ニシテ諸民ヲ憐可有。敵ヨリ又如此計トキハ敵恐ルヘシ。是等ノ次第詳ニ不及、主將ノ常ノ謀略ニハ諸民ノ心ヲ計テ安居テ危ヲ不忘、君ノ恩有カタク思テ一命ヲ輕シ、イヨ、忠ヲツクサン事ヲネカヒテタイセツソンスル上ハ、類萬ノ敵來テ責ルトモ落ヘキニ不有。又イカホト武略ヲメクラシテ城取ヲ賢固ニシタレハトテ將ノ道ナクハ亡ン事一時ナリ。唐ノ咸陽宮ハ古今無双之名剛城ナレ共、王ノ侈ニ長正道ヲ不學故ニ亡事時スキス。又魏ノ武侯舟ニノツテ西河ニ浮ンテ下ル時ニ、吳起ト云ヘル者武侯ニ随テ船中ニ有。武侯吳起ニ云テ曰、此西河ノ要害山河固ノマコトニ我國ノ宝ヲナリト云。吳起答曰、德ニアラス儉ニ不有。心ハ君ノ德有テ仁政有ハ國治ル。必スシモ儉岨ノ要害ヲ頼ヘカラストナリ。昔サレハ三苗ト云ヘル國ハ洞庭之湖ヲ左ニ彭蠡ノ湖ヲ右ニシテ他國ヨリ攻カタシトイヘトモ、其君無道ナレハ、夏ノ桀カ城ハ河濟大河ヲ左ニ、泰山華山ノ險ヲ右ニシ、南ニ伊閔ト云ル早水有、北ニ羊腸ノツ、ヲ折成坂有。然トモ桀惡逆ナレハ殷湯王是折亡ス。其外ニ城郭ヲカマユルハ、先險難ノ要害ノ地ヲ見テ是ヲ用トコロナリ。然共滅亡スル事敵味方之中ニ有、德ヲ以治ル人ハ右ニ云コトシ自國他國ニ敵ハナキ者ナリ。サレトモ戰ヲ不忘謀正ヲ以ヨキ將修リ政事ホシマ、ニ計策智略武略ヲシラスシテ上ヲモ恐ル、事ナク下ヲモ愛スル事ナラシテ富盛ニ成事ネカヒ民ヲセメトツテ其財ヲ重、恩ノ忠士ニ宛行カ又為、人為世ニトセメテ小善ヲツムト云事アラハサノミ禁ヘキニ非ス。ナンソ屋作ヲケツカウニ立ナラヘ、或教奇屋カコヒヲ構唐大和之名人名筆繪手跡ヲ求高代奇物之器物ヲ調度シ物スキ風流ヲ好己カ心ニシタコウ法師町人無道不仁ノ人民ヲ不撰集催、今日何ノ茶屋ニテ如何ヤウノ会有、明日又ソコノカコヒニテ誰人申入其日ハソノ白拍子猿樂來、明々日如何様ノ名人何芸有人集遊興ヲモウケ或ハ思々ノ朋友之交ニハ道有コトヲ說ニモアラス、只料理ノ善惡汁鱸ハイカヤウノシタ、メヤウコソ食ヨケレトテ或一座ノ興ニヨツテ口鳥魚ヲ功燒名酒類ヲ尽テ飲醉シテ本心ヲ乱、美女小兒ヲ集テ小歌三味線打拍子ニ心ヲヨセ、盤上博奕ヲナサシメ正理ヲウシナウコトノミナリ。誠ニ武門ノ家業ヲ忘人ハ是ニメシツカハル々諸士ハカノ膳持給仕ニイトマナク武芸ノ一ツモ學ン事ヲ思忘或書一卷ヲモ眼ニアテ心サシヲ誠ニ理門ノ正人モ主將ノ不義ニサ々ハツテ道ヲウシナウ。或心ニ嘲トイヘトモ主顧シ人ナレハ其行ヲ又ハヨシサマユナシヘツロウ事耳ナレハ、必我コ、ローツヲ以余ノ損亡多シ。或謀略トテサラニ人ヲ計タフラス道ニアラス。理以謀実ヲ以知ルヲ

誠ノ軍也。孟子惠王ニ答曰、戰ヲ不學トテ國ヲ歩是シラスニ非ス。惠王非礼非義ノ軍ヲ問ニヨツ不答。古聖賢者天ノ理ト時ノ運ト敵ノ法ト味方ノ法トヲ兼テ進退有ユヘニ軍ヲ出シテ不勝事ナシ。タトヘハ戰ニノソシテ軍ノ出スニ十二之法有。曰、第一、教戰ノ法ヲイタシテ上下ニ步列ヲ教ヘシ。第二、軍制ヲ出シテ上下ニ賞罰ヲ示志ヲ励スヘシ。三、行軍之法ヲ出シテ上下ノ進退ヲ安スヘシ。四、營舎ノ法ヲ出シテ上下ヲ安スヘシ。五、城之法令ヲ定用具時ヲ知シルヘシ。六、城取之法ヲ定所地ノ普請ヲ安ヘシ。七、奇變ノ法ヲ說テ敵陣ノ虚実ヲシラシムヘシ。八、神道仏道ヲ說テ和合方便ヲ悟ラシムヘシ。神妙之謀尽ヘシ。九、雲氣之二傳ヲ悟ラシメ奇妙ノ道ヲ用ヘシ。十、夜軍ノ術業ヲ說テ敵ヲ勞セシムヘシ。十一、人情心趣ノ妙惡ヲ說テ人ノ賢愚ヲ悟ラシムヘシ。十二、天下ノ乱相ヲ說テ時勢ノ謀ヲ用ユト傳ヘシ。是十二之法口伝有之。古語曰、國雖大好戰必亡、天下忘戰必危。此心ヲ以悟タマヘ。身ノ國大ニシテ敵小國ヲアナトツテ責共愚將ハ却亡ヘキナリ。天下國家安シトテ戰ヲ忘テ兵法ヲ不學トキハ必危事ナルヘシ。

一、臣諸卒民百姓第一可憐事

凡臣下諸卒民百姓者主將ノ下ニ有、主將ノ惠ヲ請テ立者ナレハ、少モ恨ナカラシシメン様、忠恩ノ報民ノ苦勞ヲ考ヘテ貪事ナカレ。

案曰、臣下諸民我一子ノコトクニ可憐。小人ハ恩ヲ報ニ恩トナスニヨリ却テ恨出來其恨ニヨツテアタトナル事多シ。君子ハ德ヲ以人ヲ愛スルニヨツテ讐トナラス故ニ讐モ終ニツクルユヘニ世ニ恨者ナシ。又讐ヲナス者ニハ猶々恩ヲ報シテ是ヲ愛シイヨク恩トナツテ其德甚ナリ。荀子云、君ハ舟也。庶人ハ水也。水則載舟水則覆舟。此心ヲ以君臣ノ道少モ不違、諸民之愛水魚之コトクニ可心得。人主ハ乱ニ物ヲ好事不可有事

凡上之好トコロヲ下万民マテ是ヲ好。タトヘハ唐玄宗身ヲ愛シタマヘハ都人ミナ袖ヲヒルカヘシテ侈、齊ノ景公馬ヲ愛セシカハ都内名馬滿リ、吳王ハ劍ノ愛セシカハ國委ク劍ヲヨコタヘ聖王道ヲヒロムレハ國人又道ヲ行。

案曰、人ハ其國其郡ノ法ヲ以行道ナレハ、其上有人必一ツヲ行トコロ前後ヲワキマヘテ善ナル道ヲモツハラニスヘシ。或ハ敵國ヨリ忍ヲ入テ其國人ノモテアソヒヲ見聞シテ國主ノ心意ヲ計知事也。詩歌管絃ナレハトテ武將タル人ノ好トコロニアラス。是公家ノ業ニシテ更ニ武家ノ嗜ニ不有。此道ヲ行花車風流ナレハトテ嘗ヲ得ル事ニアラス。雖然又一向學シルマシキハサニモ非ス。國郡ノシル人ハ万事ノ心カケ可有。枕ヲ友トシ美兒ヲ集美女ヲ以友シテ遊興アラソヨリハ、シカルヘキモノナリ。古ノ名將良將ノ文武達為世人考、ヘシツテ詩歌管絃ヲナスユヘ政事ノカイトナラスシテ今ニ至ツテ嘗トナレリ。後世ノ人主曾テ誠之道ノ不智ハ名門利口之タメニ他人ノツラネシ詞ヲトツテ己カ心ノ思ト

シ、我心ヲツカシ、斬^ツ一句ノヲレ句ヲモツタリテハ千万タヤスカラサルヤウニ云ナシテ我慢邪義ノ本トナレリ。若ハ此ニ至^ニ道ヲ守武道ノ益ニアラハ歌ヲモ誦、國ヲ治ルタヨリトナラハ詩ヲモ作リタマヘ。サレトモ公家武家業、武家ノ公家職、法師ノ在家業、在家ノ法師ノシヨサ、男ニ女ノハサ、女ニ男ノシハサ、童ノ老婆馴タルト上臈下々馴タルト無益ノ者トミヘタリ。
鵜鷹道遙^ニ長スヘカラサル事

凡鵜鷹道遙ハ民田畠ノ損亡多シ故禁スル事也。案曰、曾テ捨ヘキ事ハサニ不有、武士タル人ハ如此ヨリカラ山海川野之劍難ヲ見定要害ノ地ヲ計徳、或兵法ノ掛引口業ナトニ心ヲ付ル徳、或民ノ国乱シテ損亡ヲ考ルノ徳、是等ノムネヲ細ニ心ヲ付ルハ名將ノ行ナリ。然ハ不可ト云カタシ。但愚將ノ行ニハ己力樂ヲ樂トシテ下万民ノ苦勞ヲハカラサルカ故ニ田畠ヲ踏損日々ニ人夫ノ役多シテ責仕事ノミナリ。如此天命ノ恐如何、終ニ已ト其罰出来テ國家ヲ亡ノモトヒト成モノカシ。能々可有心得者ナリ。

人主タルハ賢者良臣ノ用テ能諫ヲ可請事

凡主將之要用トスルハ先賢才譽有ヲ見聞シテ國治家ヲ治政事ヲ

正行ヘキ者ナリ。必我意マカ^ルトキンハ禍事可多カル。

案曰、天下國主ハ常ニ賢者譽人ヲ見知テタトヘハ奴卑ナル人ナリトモ、ヨク道理ニ叶私欲邪義ナラサル人ヲ以ソレ々ノ役ヲ可任也。既舜ハ臯陶ヲ用、殷ノ湯王ハ伊尹ヲ用、周ノ文王ハ太公望ヲ用シ。是自一ツ々國民ニ心ヲ付テ憐事ハナリカタシ。サルニヨツテ能人ヲソレ々ニ用ルヲ以將ノ法ト云ナリ。

主將ハ賞罰正スヘキ事

凡一城一郡ノ司タル人ノ專ニ行トコロハ賞罰正シキヲ以能大將ト云々

案曰、良將^ノ最^ノ貴^ノ沙汰毛頭スヘカラス。小科ヲ以大科行事ナカレ。大科ヲ小科

ニ行ハ可ナリ。又慈悲ニ心ヲマカテ可罰ヲ罰セサルトキハ却テ讐ナルモノナリ。

國ニ科人多出来後ニハ我國家ヲ亡モトヒナレハ可殺ハ早コロスヘキ。凡往古ノ法ヲ見ニモ、訟ヲ聞事兩方争ニ目案口書ヲ以タカヒニ証拠ヲ定ル事ナリ。又其争ノ是非ヲ聞分明テ刑ノ罪ニ定、是五辟ニ聞五刑ニタタスト云、或ハ罪ノ輕重ニヨリテ其アタル科ニ行ヘキ。又十惡罪一^ニ曰謀反、二^ニ曰謀大逆、三^ニ曰謀叛、四^ニ曰惡逆、五^ニ曰不道、六^ニ曰大敬、七^ニ曰不孝、八^ニ曰不睦、九^ニ曰不義、十^ニ曰内乱。此十惡ハ皆死罪ニアタル。今日本ノ名例ニハ不睦ト内乱トテ除テ残り

八ツト名ク。名例律ハ文武天皇ノ時淡海公ノ作也。又七殺トテ人ヲ損サスル者ヲ又其者ヲ行法有。一^ニ曰劫殺、二^ニ曰謀殺、三^ニ曰故殺、四^ニ曰鬪殺、五^ニ曰謀殺、六^ニ曰戲殺、七^ニ曰過失殺也。其外品々不計事ノ罪有。ヨク々奉行頭人ニイタルマテ法ヲイタシ、或ヲシコムルカ或遠國ヘ流又其所ヲヒハラフカ、輕重ヲシルヘキモノナリ。タトヘハ人ヲ殺モノタリトモ其品ニヨツテ過錢ノイタシテ其殺

タル者々親類ニ与ヘテ其罪ヲユルス事モ其思慮ハ人主或奉行頭人ノ心得可有也。何事モ理ヲ責ルトキハ人之恨又損スルトコロナキモノナリ。サレトモ私欲邪義ノ人ハ非道有危。殺マシキモノヲ殺、又可罰ヲ不罰。是ハミナ私欲貪有ニヘナリ。

一、諸司位ヲ高カラン事ヲネカウヘカラス。只心ノ賤事ヲ察シテ徳ノ高カラン事ヲネカウヘシ。其徳高シテ授時ハ礼法不乱者也。

案曰、夫官ハ礼ノタスケナリ。凡百官悉上ニ有テ下ヲ慮ヲ礼トス。下位ニ有テ上ヲ尊ヲ敬トス。礼盛則國王威重シ。將ノ威有則士卒法ニシタカフ故ニ官官タル時ハ礼成、礼成時ハ威成、威成則義成、義成則死成、死成則戰^ニ利有、戰^ニ利有則終^ニ天下ヲ保ツト也。亦位官授ニハソノ器量ヲ鑑テ授ヘシ。深知ナキ者ニ官ヲ授時ハ、礼法ヲ乱テ上ヲ、カシテ位ヲ失、上位ヲ失則下自ア^ル。因之官位ハ智徳シユンシユクシタル人ヲ見計事肝要ナリ。タトヒ忠功有トモ道徳ナクンハ必授ヘカラス。是ヲ諸主位官ヲネカヒ歎人多カユヘニ官位ヲ上ヨリ不授トテ己カ思ヲ悟シメン禁ナリ。

一、天下ノ主將或一國一郡司タリ共道ニ不有新法ヲ不可立事

凡新法ハ邪義佞奸曲之法貪ナルユヘニ、必新法度或古法ノ定ル事ヲ私トシテ改ヘキニアラストナリ。諸法ハ大概定ル事ナレハナリ。案曰、新成事一ツトシテヨロシキ所ニアラス。若為世人トナルナラハ新法ハイカホトモ可立。且又國々ニ新田畠ヲ發、徳ヲ得ントテタトヒ其國中二十万石ノ人民ノ勞シテ是ヲナス者ナリ。此外十万石ノ人民苦勞ハカノ一石ノ新田ノ所納ヲ以タトヒナツクナウトモ其勞ツクノヒ難シ故、今ノ人此品ヲシラスカノ一石ノ新田ヲノミ見テ上ノ益ナリト見タリトモ、新田ヲ開事多シ。最其國人ノタメ之益ナキニハ不有。十二ニシテ六七分ハ益スクナキ事多カルヘシ。イカントナレハ一石ノ新田發得タリトモ、其田地耕ヘキ人民又ナカラン時ハ、其國其所之人民ニアツルナラハ、國人多又田地スクナキニハ皆本田ノカヲ分テ新田ニ用ルカ故ニ、自本田ノ害ト成ヘシ。此等ヲサノミ禁スルニアラス。可有思慮。

右九ヶ條ハ主將之心得最諸人之嗜共可成歟。其外教法雖有之略之。猶仰後之賢言耳。

臣下嗜之事

一、為臣君ニ忠ヲ專ニ國家安全ナラン事ヲ諫ヘキ事ナリ
凡臣ハ水ノ如シ、君ヲ舟ニタトヘタリ、水正則舟ヨク載トナリ、然ハ正心ヲ以惡トシ君命ニ實ヲ^ル事君又不義ヲ可諫、々テ用サルトキハ怒スシテ義ヲ貫守テ己カ礼ヲ不乱柔和ヲ用理ヲ尽ヘシ、案曰諸臣ハ君ノ心ヲ察シ諸人ノ善惡ヲシラスハ臣下云カタシ、或ハ君ニ忠ヲ尽サンニ私欲貪ヲ以ナストキハ一タン真理ヲウルトモ終其罰ヲノカルヘカラス、為君為諸人ト心得ナラハ實ノ

道ナリ、為君諸人ヲ貪ナラハ却テ君ニ讐ヲナス道理ナリ、又君ノ不義不行ナリトモ臣ノ正ヲ以テ諫ルトキハ君々トナラン、若君欺テ用給ハス却而怒ルトモ退テ毎度モ可諫、暗君ニシテ清明ナラスンハ方便ノ心ヲ以テ又他人ノ道有人ヲ以テ諫ルカ如何様ノ諫ヲ以テ君トセヨ、是ヲモ不用則必國家ヲ去ヘシ、君ノ不義不行ヲ見テモ更ニ不諫ハ是己カ身ヲカハヒテコヒヘツラウ耳ナラン、臣ハ不忠ノ者タルヘシ、タトヘハ忠トナラハ骨肉ヲ割トモ勇義ヲ變サルヲ臣ノ誓トスヘシ、唐大和ニ此類有シトモ、又マレナルヘシ、大概君ヲ敬ニ以テ己カ私欲貪ナル事耳ナリ

諸臣君之寵愛人ヲ嘲惡事ナカレ、凡臣トシテハ主君ノ愛スル者ヲ必誹ハ姦人佞人ノ類ニシ君ニ談ヲ進入我意ヲスクハントホツスル者ナレハ大ニ可禁也、案曰主君ノ愛スル人ヲ嘲ハ非ナリ、又非義非禮ナル者ナランニ一向其佞サシヨクヘシニアラス、其者々器量ヲ見立德有人善人ヲ以誹ハ愚臣邪臣ト云ヘシ、又カクノ如クノ人ヲ誹ハ私ノ案ニ任善徳有人ニ疑多キユヘナリ、臣タル人ハカリソメニモ心ヲ付理非ノ鑿正シ諸卒ノ心ヲ補安全事ヲ計自謙下慙慙ヲ專トスヘシ、右ニケ條者臣下心得タトヘハ主君ノ法行ヲ考ヘテ可知者ナリ

孝ヲ以本トスヘキ事
凡孝ハ人心ノ本躰ニシテ天ヨリ命スル人ノ真性ナリ、高下共ニ父母ヲ敬道ヲ正スル至極ナリ、立身行道楊各於後世顯父母孝ノ經ナリ、案曰聖賢ノ教法ニ孝ヲ物之道理本トス、孝心ナカラシ人ハタトヒ如何道理ヲ明タリトモ實ノ道ニ不有孝徳正ヲ人心ノ本ニシテ嘗ヲトリ天命ニカナヒ其身全シ故ニ孝経夫孝始於事親中於事君終立身孝心ノ理海山難筆紙尽者ナリ

神佛ヲ疎畧ニスヘカラサル事
凡上一人ヨリ下萬人ニ至ルマテ神佛ノ正理ヲ信テ尊敬ヒタシ疎畧ニスヘカラス、タトヘ己カ尊サル神佛タレハトテヲロソカニセハ其罰ノカルヘカラサル者ナリ、案曰神者人ノ敬ニヨツテ威ヲ□シ人ハ神ノ徳ニヨツテ連ヒラクルナリ。神トハ佛佛人神和光分身ナリ、神道仏道ノ事ヲシラサルハ又愚ノ人ト古将モ禁ヲカレタリ、サレトモ仏道ハ法ニヨツテ不用有、如此次第ヲヨク考ヘテシルヘシ、若邪法ヲ以テ是ヲ尊ハ實佛心ノ正理ニソムキ或國家ヲ破亡ノ基ナリ、或ハ不孝不忠ノ人ト云ヘシ、常ニ因果ノ二法ヲ觀シテ必亡事可有□ナカレトナリ

四民共ニ嗜ノ事
凡四民ノ嗜君臣諸民ノ教ヲ以事業ヲ考ヘシ、先物堪忍ヲ慎ハ或ハ夫婦ノ間ヲ和シ長幼朋友ノ口慎道理ヲヨク考知ヘキ者ナリ、或修ヲ止檢約ヲ用其分限ヲ以行ヘキ事也、前ノ五常教ノ内有ユヘ是畧スヘキ也

朝早起テ夕ニ早寝ヘキ事
凡諸人ノ常ニ嗜ヘキハ朝ニ早く起テ其ヨリ用事ヲ朝飯前ニ勤ヘシ、又夕早寝テ

必夜深更ニ至マテ徒ニ遊ヘカラス、古語ニ曰子ニ臥テ寅ニ起ヘキトナリ
右十五ヶ條者聖賢ノ教ヲカルル道ナリ、此心ヲ悟人ハ世ノ嘗明ナリ、今時メケル主將ニ信□人ハ少シトニヤ可心得者也、此武家教法ハ愚ニシテ智人見給ヘキニアラス、唯童幼ノ見タマハントテ拙我ニ宣ヘハ常々人ノ教給事ヲ耳ニノコシテ今一冊ニツ、リテ披見ニ入ル者也

《②宮城県立図書館養賢堂文庫》

《序》

武家諫忍記序并国法

夫我朝ハ有東海中故号日本。凡東西千里ニ不過、南北五百里不足、小国ナリトイヘトモ、開闢ヨリ以來、聖主道開今ニ至マテ其印明也。是則宗廟（宗廟）天照太神一切之神祇之教誠神力威光ノ力ニハ、唐土天竺之威徳モ及事アタワス、誠ニ礼儀ヲ守豊饒目出度国也。所謂五畿七道ヲ以表五常立六十余州之分八統六十四卦也。此国開闢ノ始ハ洌浮シ漂ヘキ。譬ヘハ猶游魚浮水上也。干時天地之中ニ生ニ物ニ状ニ如ニ葦牙（葦牙）。便化（便化）為神ノ号国常立尊ト云々。是ヨリ六代之神者陽神也。但泥土瓊尊・沙土陵尊・面足尊・惶根尊、是三神合六神雖男女之形無夫婦之義、亦不和隱所伊弉諾・伊弉冉之尊、於是陰陽始合、為夫婦産ハ洌海川草木日月等神番地番地五行、御子天照太神是地神謂大日靈神、亦号天照大日灵虫曰鸕鷀草造不合尊マテ、五代人王始神武帝日本末国々所々之分モナク万国一体ナルヲ、神武御子綏諸（綏諸）天皇山陽ヲ始踏分、三十二代用明帝五畿七道定、四十二代文武天皇六十余州ヲ分、然而此国尊モテアソフ事、神世ヨリ神歌ナシテ和歌ヲ業スル。唐土之詩文ニヒトシ、サレトモ往昔ハ文字ノ員モ不定シテ、素戔之尊到出雲国八雲立歌ヲ誦始テ三十一文字ト詠干今不絶其徳為聖教戒之端、或動天地感鬼神化人倫君臣父子夫婦兄弟朋友之礼義ヲ正其高事不及言。誠悟奇神妙之事ハ、聖門之不語所トイヘ共、灵赫自然ノ理黄鳥秋蟬并ノ声各發歌謡人之心ヲ和ルヲ以徳義、其故ニ名テ倭国ト云。国之政コト王帝、或武家ニ政道スル事、度々ニシテ入乱ス。干時文祿年中、豊臣秀吉武威有リテ、天下之剛敵ヲ退治シテ、既ニ朝鮮国マテ征伐ス。從是四海一統シテ八嶋之外マテ悉慶長年中秀吉薨シ玉ヒテ、息秀頼卿天下ヲ治然トモ名将良将ニ非スシテ、愚ニ政道不正、故ニ徳川家康公

清和天皇二十五代之後胤、新田姓源家中興征夷大將軍太政大臣從一位、行年七十三。元和二年四月十七日薨シ玉ヒ、日光山大権現トス。徳川氏先祖四郎義季ヨリ十六世祖父次郎三郎清康 父次郎三郎広忠、生国參河、具ニ有伝記故ニ略之。

秀吉秀頼二代之御ヨシミ有、故度々不義ヲ雖被諫、更ニ不用之聊之事有リテ乙卯ノ

年江府ヲ立テ、大坂発向既ニ及合戦五月七日秀頼ヲ討捕記ニ具成故之。天下之政道ヨクシテ人民安樂。誠ニ喜悅之眉ヲ開ク。凡及五年日々武運繁榮、天下古今其例ナシ。偏ニ当家宗廟家康公ノ威徳有テ權威広大成故也。而為大樹主守護高家大家国主ニ至ルマテ、東西入代テ參勤之法例イサ、カ違ナシ。国々所々下知ヲナス事、古法之義式旧事ノ礼慮最詳也。然レトモ国司之制法違有テ、自ラ才智ヲ以治ル事、誠ニ賢愚ノ替有テ不同。是ニ其久々浪人ニテ身上為稼事、便ヲ求テ国々所々徘徊シテ其国其家之御作法ヲ荒増聞及見及テ記之畢。凡諸国ニ至ル事始テ九州筑前福岡ニ暫ク滞留スル内ニ、肥後熊本又薩摩鹿児島ニ行、中国ヲ不殘四国ニ廻、山陰道ヨリ北陸道越前加賀ニ一ヶ年在テ越後路ニカ、リ、出羽奥州米沢南部或仙台ニ至ル。亦江府ニカ、リ所々之城下へ打廻、大概日本国中ニ不至ト云所ナシ。折柄思出テ書記ス。然レトモ、其国ニ敢テ用ナキ所へ不出、故ニ其余ハ国伝ノミ也。亦国主郡主之行跡モ聞伝ル耳ナリ故ニ是トスヘカラス。善惡不義者今日不智ニシテ明日智有人多シ。前ニ誹有テ後ニ譽有人多シ。或ソレノ人之相ヲ見テ、凡以善惡不義ヲ考カヘテ云モアリ。然レハ違多カラシ。兼好徒然草ニ名ヲ聞ヨリ、頓テ面影ハラシハカラル、心地スルヲ見ルトキハ、兼思ヒツルマノ顔シタル人コソナケレ。昔物語ヲ聞ニモコノ比之人家ノソコノホトニテソ有ラント覚エ、皆如此顔サマ其器量人ニ勝レタレトモ、心無実ノ人亦器量形不具ナレ共、志ノ実直ニシテ憐人、或ハ文武ヲ学テハ義不正人、此等ハ説書博學ト云計物之似セト云ナルヘシ。又不学シテ道理ヲ不背法ヲ正ス人アリ。内心愚ニ拙シテ外ニ權威有人、或文道ヲ甚シクシテ、武法不好人モ有。武ヲ專ニ文ヲ不知モ拙ナシ。文武ハ兩輪之如シ聰明叡智ニシテ細少ヲシラサルモ有。同シテ不同、誠ニ諸事兼備タル人ハナシ。今譽レ有人ト云ハ、尾州義直。是ハ文武ノ譽レ有人ト云ニハ非スシテ、大勇ニシテ慈悲専ラ也。紀州頼宣ハ文武ヲ学フ事甚ニシテ威徳正憐ミフカシ。其外水戸光圀、松平綱利、松平光久、松平忠次、松浦鎮信、石川昌勝、安藤重貞、加藤明友之譽レ有事、其外本書ニ記略之。此善ヲ揚ル事十之品ヲ以考見時ハ、六之善ヲ以譽トスル物也。善有テモ亦惡有人モ多シ。十之内、六之善ニ四ツノ惡アラハ善ト云ヘカラス。又四ツノ善ニ六ツノ惡有ニモ品有惡行ナキ人、亦善ナキ人ノ分譽レモナク誹モナカラシ。其次第難ニ述筆紙トイヘトモ、大形記之。

一諸国地頭人年貢所納雖有限国々所々地頭人ニ依テ違多シ。或ハ広シトイエドモ下田又拔群、上田ノ所ハ地狭シトイヘトモ、高ニノホル。此分本書ニ詳也。奥州出羽之分空地多クシテ人民スクナキ也。其外国々土地之広狭、人民多少、又五畿内并辺国ハ上田ニシテ米穀高二越テ多キ所委本書ニ記之。

一諸国諸法度之事天下ノ制法ヲ以雖治之、私ノ家法多シ。最本書ノ表ヲ以テ考可知。主トシテ奪、臣トシテ欲心ヲカマヘ又主ハ潔白ナレドモ、郡代々官等ノ役人私欲ニシテ民困窮スルモ有。地頭之役ニ費男女耕織之暇モナク衰タルモアリ。或所納

遅引之時ハ、寒水ノ籠ニ入モ有。又妻子ヲ召取非道ニ召仕モ有。或一生ヲ沽却シテモ其籍叶カタク、路途ニ立テ迷惑ニヲヨホスルモ有。品々委本書ニ記ス。

一諸家之仕置等不同有。最本文ニ詳記之。知行、或役義、或在江戸ノ年扶持方米ノ多少雜用模合品々下之ニ其違多シ。タトヘハ百石宛行ニ漸黄金十兩二十兩ニ不過モ有。亦扶持方モ三人フチニテ百石ノ役義ヲツトムル家モ有。百石六人フチ方取家モ有。或ハ舛目ノ高下、或ハ百石ナリトモ、三十兩四十兩ニ当ルモ有。又三ツ物成ヨリ四ツ五ツ又ハ六ツ余ニヲヨフトイヘトモ国ナカラシニ与之家モアリ。タトヘハ地形千石タリトイヘ共米穀等ハ百石之所ヨリ不足ノ地モ有。所々家々之定有也。模合雜用不与家モ有。其多少雖不詳、本書ニ記之。

一國々材木柴薪禽獸魚類之多少之次第記之。

一同米穀生并払方之善惡有。此等ノ品々詳ニ記之畢。如是之次第ヲ以土地之上中下之米穀多トモ払方之惡ヲ下地トシ、少クシテモ払方宜ヲ上地ト云ニテハナシ。一家々人数軍役等相応多少有。亦渡侍多シテ旧士ヲ不取立家モアリ。亦国士計ニテワタリ待ナキ家モ有。大概記之。

一諸国居城在所之方角、山海ノ遠近具ニ記之。サレトモ城郭之凶形要害堅固ノ地、引用之城トナリハ、国々所々之城絵図ニ詳成。故略之。并家々之家老之名字大概記之。

右此書記所ハ、一萬石以上凡二百余人有。此外不詳ハ不記之。

《国法》

日本国中高付方角山海川田畠生物之品々善惡城付并ニ今高ハ御當家古高ハ秀吉公之檢地之次第委細ニ記之

五畿内五ヶ国

一、山城、南北遠東西近、西北東ハ山也、川有、生物万吉

古高二十二万五千二百石

今高二十一万五千二百石

禁裏御臺所入公家方寺社領御藏入淀領其外入相アリ

一、大和、南北遠東西近、大國、土地上々、山川多、生物万吉

古高四十四万八千九百石

今高四十一万三千石余

寺社方公家方郡山高取宇多領其外入相甚多シ御藏入有本書具也

一、河内、南北遠東西近、土地上々、東南山也、川池多シ、田畠多、生物万吉

古高二十四万二千八百石
今高三十万八千八百石

、 寺社少公家領御藏入多南池尻淀領其外入相多シ

、 和泉、南北遠東西近、土地上、西ニ海有、諸生物能、就中八木ノ直段吉

古高十四万五千石

今高十三万八千七百九十石

、 寺社方御藏入岸和田領其外入相有

、 攝津、東西遠南北近、西海山川多シ、上々之土地、生物万吉

古高三十五万六千七百七十石

今高二十九万九百石

、 公家方寺社領御藏入尼崎高槻豐嶋三田其外入相多シ

東海道十五ヶ國

、 伊賀、四方之國、土地上、山多、木竹多、米穀生物吉

高九万五千五百石 古今同

、 悉ク上野城付但シ勢州阿野津同領寺社少有

、 伊勢、南北遠東西近、海西北山也、土地上、生物万吉

高五十六万七千五百石

、 兼名阿野津龜山神戸長嶋鳥羽之城付御藏入并紀州領寺社有

、 志摩、東西遠南北近、小國也、東北西海、又山有、山海之類生物多

古高一万七千八百五十石

今高一万七千八百石余

、 悉勢州鳥羽同領也

、 尾張、四方之國、西海東山、田島多シ、生物万吉、土地上也

古高五十七万七千七百三十石

今高四十八万八百四十石余

、 悉名護屋領寺社領少有

、 參河、東西遠南北近、西ハ海也、山川多、土地中之上、生物モ同シ

古高二十九万七千七百石余

今高三十五万石余

、 吉田岡崎蒨屋ノ城付其外入相多シ御藏入名護屋領寺社領少有

、 遠江、東西遠大形ハ四方之國也、南東海山川有、田多生物吉、

土地中也

古高二十八万石

今高二十五万五千六百石

、 御藏入多濱松横須賀其外寺社領少入相甚多シ

一、 駿河、東西遠南北近、山川沼有、土地上也、萬生物早ク吉

古高十五万石余

今高十七万二千石余

、 御藏入寺社領少田中領其外入相多シ

一、 甲斐、四方之小國、四方ニ山有、下國也、生物品多シサレトモ田島少シ

古高二十二万七千六百石

今高二十四万二千石

、 御藏入郡内領其外入相多シ

一、 伊豆、南北遠東西近、小國、土地下也、西南海又山川有、島多シ、生物不吉

古高六万九千八百二十石

今高七万九千三百石余

、 御藏入寺社方少有

一、 相模、四方之國、土地中ノ上、南ハ海、西山川有、生物少シ

古高十九万四千二百石

今高十九万四千五百石

、 御藏入小田原領寺社方其外入相多シ

一、 武藏、四方之大國、土地中、東海山ナシ、田島廣シ、生物多シ

古高六十六万七千五百石

今高八十万石余

、 御藏入岩付川越忍領寺社方其外入相甚多シ

一、 安房、東西遠南北近、小國、土地中也、西北南海又山有、河原沼多、生物不吉

古高四万五千四十石

今高九万九千七百石

、 御藏入東條領其外入相多シ

一、 上総、四方之小國、土地中、東西海山川有、田島多シトイヘトモ生物中也

高三十七万八千八百九十石

、 御藏入寺社方佐貫領其外入相多シ

一、 下総、北南遠東西近、土地中、西ハ海川有山ナシ、田島多シ、生物吉

古高三十九万三千石余

今高三十九万三千二百石

、 御藏入寺社方少佐倉古河関宿領其外入相甚多シ

一、 常陸、大形四方也、但南北少遠、土地中、大國也、東海北山川多、生物吉

古高五十三万石余

今高七十五万三千六百石

寺社方少水戸笠間土浦宍戸下館河越領古河領其外入相多シ

東山道八ヶ国

、近江、凡四方之国也、国ノ中湖水也、四方山川田畠多、大上之国也、生物万吉

古高七十七万五千三百九十石

今高八十三万二千二十石

御蔵入彦根膳所領公家寺社方其外入相多シ

、美濃、東西遠南北近、曲タル国、土地上、山川田畠共ニ多シ、生物吉

古高五十四万石余

今高五十八万五千五百廿三石

御蔵入寺社岩村加納苗木大垣八幡高洲麻田名護屋付其外入相多

、飛騨、東西長南北少近、土地中之下、山川有、材木多シ、田畠少ナシ、生物不

宜

古高三万八千石余

今高三万八千七百六十四石

悉ク高山領

、信濃、東西遠南北近、土地下、大國也、畠多田方少シ、材木甚多、生物不

古高四十万八千四百五十石

今高五十四万七千三百六十石

小室松城上田飯山松本諏訪高遠飯田名護屋領其外御蔵入其外入相多シ

、上野、東西遠南北近、中之土地也、山川田畠多、生物不

古高四十九万六千三百石

今高四十六万八千石余

館林高崎前橋沼田其外入相甚タ多シ御蔵入有

、下野、四方之丸キ中ノ国、土地中也、田畠多シ、生物吉

古高三十七万四千八十石

今高四十六万四千石

宇都宮鳥山太田原壬生鹿沼足利黒羽寺社方少其外入相多シ

、陸奥、東西遠南北近、土地下國、所々違多シ、山海山川有、田畠廣シ、生物中

也

古高百六十七万二千四百石余

今高百八十二万九千石余

寺社少棚倉白川若松三春二本松郡山仙臺白石米沢中村若松(岡抜)盛津輕三戸其

外入相多シ

一、出羽、南北遠シ、東西近シ、西海有、山川田畠多、生物中也

古高三十一万八千九百五十石

今高八十七万石余

山形新庄鶴岡本庄窪田大野勝山大山亀田沢其外入相多シ

北陸道七ヶ国

一、若狭、東西遠南北近、土地中之上、北ニ海有、生物不

古高八万五千石余

今高八万五千九百石

寺社領少小濱領

一、越前、東西少遠南北近、大形四方也、西北海南ニ山川多シ、中之上、土地吉、

生物不

古高四十九万六千六百十石

今高六十八万二千六百石余

福井丸岡大野府中小濱付其外入相有

一、加賀、南北少遠東西近シ、土地中、西海、田畠多シ、生物吉ニハ非ス

古高三十五万五千五百石

今高四十四万二千五百石余

悉ク金沢付大聖寺領トモニ

一、能登、南北遠シ、東西近シ、西北東海有、土地中、生物不足ス

古高二十一万石余

今高二十万六千八百九十石

悉ク金沢領

一、越中、東西遠南北近、北ハ海也、山川多、下國、生物不

古高三十八万三百石

今高五十三万六千三十石

悉ク金沢領

一、越後、東西遠南北近、西北山川多シ、大國、土地寒国、生物遅シ

古高三十九万七百七十石

今高四十五万六十石

高田柴田長岡村上本庄其外入相多シ

一、佐渡、四方之小国、四方海也、船ニテ渡ス、下国、生物不足

古高一万七千四十石

今高二万五百九十石
悉ク御蔵入

山陰道八ヶ国

、丹波、四方少南北遠、小国、山川多シ、土地中也、但関東方之上国ニ同シ、生物品々有、米穀少シ

古高二十六万三千八百石余
今高二十八万五千七百七十石余

、福地山笹山龜山綾部山家其外入相多シ御蔵入公家寺社領有

、丹後、東西遠南北近、小国、土地中也、北海山川有、生物吉
古高十二万三千石余
今高十二万三千七百七十石

、但馬、四方中之土地、北海山川多シ、生物大形ヨロシ

古高十二万四千二百三十石
今高十二万三千九百六十石

、御蔵入豊岡出石領入相有

、因幡、四方之國、北海山川有、土地トモニ下、生物不吉
古高八万八千五百石
今高十三万六千四百四十石

、伯耆、東西遠南北近、北海山川多シ、土地中、生物大形也

古高十萬九千四十七石
今高十七萬五千三十石

、出雲、四方之國、入海方角不詳、土地中、寒国故生物遅シ

古高十八萬六千六百五十石
今高二十二萬三千四百七十石

、石見、東西遠南北近、北海山川有、中之國、土地下、生物不足ス

古高十一萬七千七百七十石
今高十三萬七千三百七十石

、津和野濱田領御蔵入少有

、隱岐、四方ニ海、又四方舩渡、土地下、生物不足ス

古高四千九百八十石
今高一萬千八百石余

松江之主預リ

山陽道八ヶ国

一、播磨、四方之上國、南ニ海有、山川多、生物万吉

古高三十五萬八千石余
今高五十二萬二千三百石

一、美作、東西遠南北近、中之土地、山川有、生物大形也

古高十八萬六千七十七石
今高二十二萬七千七百七十石

一、備前、四方之上國、南ニ山川有、土地上、生物ハヤシ、海有、万吉

古高二十二萬七千七百七十石
今高二十八萬六千二百石

一、備中、南北少遠東西近、南ニ海有、山川多シ、土地上也

古高十七萬六千九百二十八石
今高廿二萬七千八百石

一、備後、大形四方之國、南海山北ニ川有、土地中、生物吉

古高十八萬六千五百五十石
今高廿三萬八千八百三十石

一、安藝、東西遠南山川有、上國土地也、生物吉

古高十九萬四千五百五十石余
今高二十五萬九千三百八十石

一、周防、東西遠南北近、海山有、生物中、土地中也

古高十六萬七千八百二十石
今高十六萬四千四百四十石

悉ク萩領

一、長門、東西遠西北南海山有、国ハ中、土地上也、生物吉

古高十三万六千六百六十石
今高十三万四千五十石
萩領

北海道六ヶ国

紀伊、四方、西南東ハ海山多川有、上国土地也、生物吉

古高三十四万三千五百五十石

今高三十九万五千二百四十石

和歌山付寺社領少

淡路、南北長四方海山川、中之上国、生物万吉

古高六万二千四百四十石

今高六万三千六百二十石

酒本領但渭津同領也

阿波、東西遠南北近、西南海山川多、上国土地、生物吉

古高十八万三千五百石

今高十八万六千七百石

渭津領寺社方少有

讃岐、東西遠扇之形、南東山北ハ海川少シ、中之国、土地吉、生物吉

古高二十三万六千二百石

今高二十五万八千八百石

高山（高志）丸龜寺社方少有

伊豫、東西遠讃州二同シ、西北海有、山川田島多、生物中、早ク生、土地上

古高三十万七千二百石

今高三十八万六千四百四十石

宇和嶋松山大洲今張付其外入相寺社方少有

土佐、東西遠南北近、南ニ海有、山川多、生物吉、土所上也

古高十九万八千石余

今高二十二万二千六百二十石

悉高知二付

西海道九ヶ国

筑前、大形四方、南西海有、中之上、土地生物吉

古高三十六万五千七百八十石

今高五十二万二千五百石

福岡秋月領

一、筑後、西南山川、四方之國也、土地中之上、生物吉

古高廿七万五千石余

今高三十六万六千石余

久留米柳川今上領有

一、豊前、南北遠、南東海山有、中之国、土地上、生物不宜

古高二十八万石余

今高三十二万六千六百石

小倉中津御蔵入

一、豊後、大形四方之國、東北南ニ廻海有、山川多シ、中之土地、生物大形也

古高四十一万八千石余

今高四十一万八千三百石余

村内竹田日根質木佐伯森林府内熊本領其外入相御蔵入モ少有

一、肥前、南北遠、入海多如嶋、山川有、量カタシ

古高三十九万八千三百三十石

今高五十六万四千四百石余

佐賀唐津嶋原平戸大村深江其外入相多シ

一、肥後、南北遠東西近、海有山川多シ、大國、土地中、生物吉

古高三十四万二千二百石

今高五十七万二千九百石

熊本八代求麻

一、日向、肥後二同シ、國土地下也

古高十二万八千石

今高二十八万五千五百石

縣小肥佐土原財部鹿兒嶋領其外入相有

一、大隅、南北遠東西近、南ハ海山川有、土地下、小国也

古高十七万二千石余

今高十七万五千石余

鹿兒嶋領

一、薩摩、大隅二同国也、南西北ニ海有、土地下、生物不宜

古高廿一万三千四百八十石

今高三十一万五千二百石余

鹿兒嶋領

一、老岐、肥前之西南、海中有、小国、土地下、生物不宜

高一万五千九百八十石

府中領

一、對馬、四方海有、又山多、土地下、生物不足

高一万五千九百八十石

府中領

武家諫忍記序并國法終

《教法》

武家諫忍記教法之卷

人主嗜之條々

一、天下国家之主將タル人者文武弓馬之道ヲ專ニ學、油断有間敷事。

凡人主トシテハ、タトエ若年タリト云トモ、右之教ヲ寢覺食終ル隙モ不忘失、内外始終トモニ心ヲ尽テ唯天下国家ノ安カラン事ヲ可計。然レハ先文ヲ學テ国家ヲ正シ、武ヲ學テ乱ヲ治ス故ニ、文武之二道ハ車ノ兩輪ノ如シ。一ツカケテハ政道成難シ。既ニ文ハ左武ハ右、左右手足ノ如シ。天ニ日月有ニ似、陰陽二ツノ道理也。

案曰、人トシテ高匹トモニ此道ヲタシナマスハ、有ヘカラス。而モ此道理ヲ學ントテ必文字ヲノミ學フニアラス。人広ク學ントシテハ理ニ發シ過テ、却テ妨ケト成事アリ。心ニ五常ヲ備ヘタル人ハ、人間一切ノ道ニ明カ也。五常ハ仁義礼智信五ツノ教也。事スクトフシテ理ハ广大也。所謂广大ニシテ一心也。外ニ理ヲ求ルニアラス。故ニ聖賢ノ教ニモ此五倫ヲ專ト説タマフ。人生テ東西ノ分ハ不知トモ此五ツハ明ニ備ルモノ也。サレトモ愚人實ヲ不知故、ヤ、モスレハ不義不正也。外ニ理ヲ明ニ悟云トモ道不正ハ実トハセズ。タトヘ外ノ理ハ愚ニ拙シトモ五ツノ智ヲ以テ發明也トスヘシ。此五ツノ道理ヲ詳ニ云トキンハ、仁之道ヲ本トス。夫仁者ノ心ハ徳愛ノ理トテ本心ヲ全体ニシテ人ヲタスケ愛敬シ、人ノ惡ムトコロヲ退ケ、人ノ善成ヲ進、我欲邪正ヲウシナヒ、能人ヲタスクルヲ以テテナリ。故ニ仁ハ人ノ心也ト云、仁之道ヲ不知人ハ木竹ニ等シ、禽獸ノ類サヘサヘ此道ヲ行。虎狼ハ母ノ乳ヲ飲トキニヒサマツク。川鱸魚ヲ天ニ祭、鳩モ巢ニ有トキハ母ニ養シ巢ヲ出テハ母鳩木ニトマルニ枝三ツ下ニ子鳩トマル也。如此ノモノサヘ教ヘサレトモ自然ノ理備テ仁ヲ起ス。況哉人倫ニライテテヤ。悲カナ此道理ヲ不知モノ多シ。日月毎度照シタマフ如クニ平等ニ、高下之差別ナキヲ以テ仁ト云ナリ。又孟子ニ仁者無不愛也。急親賢之為務ト云リ。義トハ宜ト云字ノ心也。万物之事ノヨク一ツ宛コトハリテ、時ニシタカヒテヨロシキヲ云。人欲ノ私ヲマシヘスシテ義理ヲ正シ法ヲ守ヲ以テ義ノ人

ト云也。或ハ又心ニアタワサル者ナレトモ、取ヘキ品明カナルトキンハ、是ヲ請ル又心ニハアタフトイヘトモ道理ナキヲ不受故ニ可請者ヲウケサルモ不義ニシテ天ノ惡ムトコロ也。又ウケサル物ヲ請ルハ猶以不義也。タトヘ富盛ンナレハトテ、終ニ其財亡ヒ失ル故ニ、不義而富且貴於我如浮雲ト論語ニ記セリ。富貴貧賤ハ皆天命也。無道ノ貪リヲナシ欲心ノミニシテ、義ヲ不守人ハ生テモ詮ナシ。故ニ君子以義為上、君子有勇無義為乱、小人有勇無義為盜ト云リ。君子タル人ハ義理ヲ正スル事第一也。若義理欠テハ必乱ヲナス基トナル。小人ハ義ヲシラネハ盜トナル也。義ヲ智人ハ死ヘキ時ニ死シ、生ヘキ時ニ生ル。是等ハ死テ見ヨキト生テ見ヨキトノ二ツ。兵法ニヨク戰フ者ハ死ス。北ル者ハ死スト云ル心也。義有人ハ死テモ其名高ク聞ヘ譽レノ手本ト成。又不義ナル者ハ生テモ恥トナル。義ノ一字ヲ以テ制スル人ハ、生テモ死テモ後世ニモ名ヲ止ヘシ。礼トハ人ヲ敬ヒ慎ミ有テ事ノ次第ヲ乱サ、ルヤウニナスヲ云也。上ハ下ヲ憐愍シ下ハ上ヲ尊敬シ、老タルヲ先シ若キ愛ス。礼義三百威義三千トテ神祭祀、往ニモ皈ルニモ立ニモ座スルニモ寢ニモ覺ニモ食スルニモ其礼義アリ。或ハ君使^フ臣^ヲ以^テ事^ス君^ヲ、君^ヲ以^テ使^ス臣^ヲ、忠云テ、君タル人臣下ヲ使ニ礼義法度ヲ正シクシテツカヘハ、臣モ又忠ヲ尽ス。礼ト云モノナクンハ又仁義ノ道モ行レシ。朱文公礼之本ハ在^テ敬^ニトテヨク敬ヲ以テ人ヲ尊愛アラハ道理ニアタルノミナラン。智ト云ハ物々品々ヲ心ニ知ヲ以テ智ト云也。此智ト云字ハシリマウスト云心也。赤子タレトモ、サムキヒタルキヲ知テ啼ハ智也。目ニテ見耳ニテ聞テモ其分ヲシルヲ以テ本心智也。善惡ノ道ヲワキマヘ知テ惡ヲ退ケ善ヲ行フハ智ナリ。智ノ正シキ人ハ、タトエハ明鏡ノクモラサルカロトシ。善惡ヲウツスニウツラスト云事ナシ。故ニ明徹ニシテ万事氣転マワリテソレノニアイシロウ。或ハ智ヲメクラシテ国家ヲ治ル事ハ颯々ト水ノ流テヤマサルカ如シ。孔子曰、智者ハ不惑勇者ハ不恐トテ、智有人ハ非ト理ヲ分明ニワキマフル故、可死時ニハ死ス。生ヘキヲ生ル。死テモ不恨、緘身ニ禍来テモ必是ニ不惑天命ナリトアキラメ、更ニ後悔ヲナサス。小人ハ其時ニ当テ始有来ニウトメクモノ也。或ハ善道幸ヲ得テモ亦是ニ心ヲカケス。過テハ早改ルハ智者ノ行ナリ。智ナクンハ天下国家治リカタシ。智ハ元来五常ノ本ニシテ、外教モミナ智ノナス所也。智ナクハ万事理ニ迷ノミナリ。信トハ誠也。少モイツハリナク定タル理ナリ。人トシテ信ナクンハ国家ヲ乱シ其身ヲモ亡ス事無疑故ニ一言ヲ口ヨリ外ニ出ス事モ卒^ニ云ヘカラス。カリソメト云ナカラ其言葉違有トキンハ何事モ不實ニシテ、人主タラン人ハ、必士卒ノ危ミ疑ヒ大ナルカ故ニ、事急ナルトキモ、平常ニナラツテ不用モノナレハ、君子ニ二言ナシトテ、一言ヲ出スヨリシテ其謂ムナシカラサルヤウニ、云出シタル事アラハ是非其ムネニマカスヘシ。然レハ其言ノ非義無道ナランニ、豈コレヲ嘲諷マサランヤ。慎ンテ思慮アルヘシ。古語

ニモ九思一言ト云リ。又口ハ禍之門トモ誠メタリ。小人ハ言葉ヲ実ノヤウニシテ、心ニハ偽リカサリ有故ニ、人ニ疎ミ恨ラル、事ノミ也。於文人言為信言而不信非為人。一年之内春夏秋冬有ソレノ約束ニタカハサルハ信也。右ノ五常ヲ学知人ハ天下之事業ヲツクシ知事也。然レハ先此理ヲ早ク悟明德ヲアキラムヘシ。

武道ハ文之末ニシテ又一道也。故二前ニ云如ク文武ハ離レヌ所也。家ニ生テハ專此道ヲ学テ天下国家之安全ヲ願トコロ然リ。

案曰、武將諸士ハ武ヲ以テ先トスヘシ。其イハレハ乱タルヲ治ルハ武也。治テ又政ヲ正スルハ文也。曰武ハ乱ヲ平、文ハ治國ヲ正スル。是前後ノ違ニアラス。左右ヲ以テ能調行フ道理也。武道一向敵ヲ討亡ノミニアラス。義ヲ以テ戦札ヲ以テ討。然則非義札ヲ以テ負義札正シキヲ以テ勝。兵法曰、非義札則不戦ト也。是聖賢之教所也。是五常之道ト別ニシテ一道也。曰武略智略軍法ト云云。武略ト云ハ我城取堅固ニ構陣能取敷備ヲ能立、人数之手組手分其作法定也。智略ト云ハ乱レタル敵ヲ真ニシテ位ヲ以テ責、又シマリタル敵ヲサタ、セ働所ヲ見テ半途ヲ撃、或ハ競力、ル敵ヲハ伏兵ヲ以テ起シ討、又ハ帰眼ノ土ヲ招テ味方ヲ入其謀ヲ聞取テ敵ヲ亡スヲ智略ノ本トス。敵國ヘ常ニ忍ヲ入テ人民是ニツクカツカサルカヲ聞テ、自國ヲ堅固ニ持テ諸民ヲ可憐。敵ヨリ又如此謀ルトキニ、

國民トモニ随ヒ属也ハ敵恐ルヘシ。是等ノ次第詳ニ不及記、主將之常之謀略ニハ諸民之心ヲ計テ安キニ居テ危キヲ不忘、慎テ政道ヲ正シ憐ヲ専トセンニ、士卒國人其恩恵ヲ有カタキ事ニ思ハサランヤ。一命ヲ輕ンシ、忠ヲ勵ンシヲヒテハ、数万ノ敵來テ責ルトモ落ヘキニアラス。コレヲ謀興ルトモ大切ニ存スル上ハ、カタラハルヘケンヤ。如何程武略ヲメクラシテ城取堅固ニシタレハトテ將ノ智ナクンハ亡ン事一時也。唐之咸陽宮ハ古今無双之名剛城ナレトモ、王ノ侈ニ長シ誠之道ヲ不学故亡ル事時ヲ不過。魏ノ武侯舟ニ乗テ西河ニ浮テ下ル時ニ、

吳起ト云ル者武侯ニ随テ船中ニ有。武侯吳起ニ謂テ曰、此西河ノ要害山河ノ堅固マコトニ我國ノ宝也ト云。吳起答テ曰、德ニアラス峻ニアラス。云心ハ君徳有テ仁政ナラハ自ラ國治ルヘシ。必シモ險阻之要害ヲ頼タマフヘカラス。サレハ昔三苗ト云ル國ハ洞庭ノ湖ヲ左リニシ彭蠡ノ洞ヲ右ニシテ、他國ヨリ攻カカシトイヘトモ、其君無道ナレハ殷湯王是ヲ計亡シタマフ。其外ニ城郭ヲ構ルハ、先險難

然レトモ桀惡逆ナレハ殷湯王是ヲ計亡シタマフ。其外ニ城郭ヲ構ルハ、先險難ノ要害ノ地ヲ見テ是ヲ用ル所也。然レトモ滅亡スル事敵味方之中ニ有、外ニ敵ハナキモノナリ。只其術ノ賢愚ニヨレリ。其國無為天下平也トテ、自ラ修政忒ニ上ヲモ恐ルル事ナク下ヲモ愛スル事ナクシテ富盛ン事ヲノミ願、民ヲ攻取テ己カタノシミトナス。或ハ屋作ヲ結構ニ建ナラヘ、教奇屋圍ヲ構ヘ唐大和ノ名

筆繪讀手跡ヲ求メ高代之器物ヲ調度シ物数奇風流ヲ好ミ心ニ順フ法師町人無道不仁之人民ヲ不選集催シ、今日ノツレノ茶屋ニテ誰人申入如何様ノ会、明日又ソコノ白拍子猿樂來テ、遊興ヲナストアナタコナタト駈廻テ、朋友ノ交リニ道有事ヲ説ニハアラス、只料理ノ善惡汁鱸ハイカヤウノシタマメヤウコソ喰ヨケレト或ハ一座ノ興ニ依テハ口鳥魚ヲ功燒名酒類ヲ尽シ飲醉シテ本心ヲ乱シ、美兒女ヲ集テ小歌三味線打拍子ニ異見多聞ヲカヘリミス後ハ盤上博奕ヲナサシメ正理ヲ失フ事ノミナリ。抑國郡ヲ預リ政道順ナラシメテ國家ヲ安セントハ不思、

誠ニ武門之業ヲ忘、不忠不義云ニアマレリ。又是ニメシツカワル、諸卒ハ彼押膳給仕ニイトマナク、武芸ノ一ツモ学ン事ヲ思忘レ、或ハ書ノ一卷ヲモ眼ニアテ心サシヲ誠ニシ理門正シキ人モ主將ノ不義ニサ、ハツテ道ヲ失ヒ、或ハ心ニ嘲トイヘトモ主ト頼シ人ナレハ其行跡ヲヨシサマニ云トシヘツロウ事ノミナレハ、必一人ノ心ヲ以テ余多ノ損亡多シ。或ハ謀略トテ更ニ人ヲ計タフラス道ニアラス。理ヲ以テ謀リ実ヲ以テ知ルヲ誠ノ軍法トス。孟子惠王ニ答曰、戦不学トテ國ヲ去去是不知ニハアラス。惠王非礼非義ノ軍ヲ間ニ依テ不答。古ノ聖賢ハ天ノ理ト時ノ運ト敵ノ法ト味方ノ法トヲ兼テ進退有故ニ軍ヲ出シテ不勝事ナシ。タトエハ戦ニソムテ軍ヲ出スニ十二ノ法有。曰、第一、教戦之法ヲ出シテ上下ニ弁烈ヲ教ヘシ。第二、軍制ヲ出シテ上下ニ賞罰ヲ示シ志ヲ勵ヘシ。第三、行軍ノ法ヲ出シテ上下ノ進退ヲナサシムヘシ。四、營舎ノ法ヲ出シテ上下ノ安居ヲナスヘシ。五、二城ノ法令ヲ定メ用時ヲ知シムヘシ。六、二城取ノ法ヲ定メ所地ノ譜請ヲ安スヘシ。七、奇変ノ法ヲ説テ敵陣ノ虚実ヲシラシムヘシ。八、神道仏道ヲ説テ和、先方便ヲ悟ラシメ、神妙ノ謀ヲ尽スヘシ。九、雲氣ノ二傳ヲ悟ラシメ奇妙ノ道ヲ用ヘシ。十、夜軍ノ術業ヲ説テ敵ヲ勞セシムヘシ。十一、情心趣ノ妙要ヲ説テ人ノ賢愚ヲ悟ラシムヘシ。十二、天下ノ乱相ヲ説テ時勢ノ謀ヲ用事ヲ傳ヘシ。是十二之法口伝有之。古語曰、國雖（一）天好（二）戰必亡、天下雖平忘戰必危。此心ヲ以テ悟タマヘ。自國大ヒナリトテ敵ノ小國ヲアナトツテ攻ルトモ、愚將ハ却テ亡ヘキ也。天下国家安シトテ戦ヲ忘テ兵法ヲ不学トキンハ危事ナルヘシ。

一〇

臣諸卒民百姓ヲ專可憐事

凡臣下諸卒民百姓ハ主將ノ下ニ有、主將ノ恵ヲ請テ立モノナレハ、少モ恨ミナカラシメヌヤウニ忠恩ノ報民ノ苦勞ヲ考テ貪ル事ナカレ。

案曰、臣下諸民ハ我一子ノコトク愛スヘシ。小人ハ恩ヲ報スルニ恩トナスニヨリ却テ恨出來其恨ニ依テ讐トナル事多シ。君子ハ徳ヲ以テ人ヲ愛スルニヨツテアタト不成故ニ讐モ終ニツクル故ニ恨者ナシ。亦讐ヲナス者ニハ猶々恩ヲ報シテ是ヲ愛シイヨク恩愛ト成テ其徳甚タ有。荀子曰、君ハ舟也。庶人ハ水也。水則載舟水亦覆舟。此心ヲ以テ君臣ノ道少モ不違、諸民ヲ愛スル事水魚ノ如ク

可心得也。

人主者猥ニ物ヲ好事不可有事

凡上之好所ヲ下万民マテ是ヲ好ム。唐之玄宗身ヲ愛シタマヘハ都人袖ヲヒルカヘシテ侈リ、齊ノ景公馬ヲ愛セシカハ都内ニ名馬満リ、吳王劍ヲ愛セシカハ國中悉ク劍ヲ横ヘ聖主道ヲ広レハ人道行。

案曰、人ハ其国其郡ノ法ヲ以テ行道ナレハ其上ニ有人必一ツヲ行トコロ前後ヲワキマヘテ善道ノ専ニスヘシ。或ハ敵国ヨリ忍ヲ入テ其国人ノモテアソヒヲ見テ国主ノ心ハセテ計知事也。詩歌管絃ナレハトテ武將タル人ノ好所ニアラス。是公家ノ業ニシテ更ニ武門ノ嗜ニアラス。此道ヲ行花車風流ナレハトテ嘗ヲトル道ニハアラシ。又一向学ヒシルマシキニモ非ス。国家ヲ治ル害トハナラス。

武芸ニ達シテ其余ハ、枕ヲ友トシ美女小人ヲ愛シテ淫乱無礼ナランヨリハ、亦此道ヲ学フモ可也。古ノ名將勇士ハ文武ニ達シ世ノタメ人ノタメ考知テ詩歌管絃ヲモモテアソフ故、政道ノ害トナラスシテ今ニ至テ嘗ヲノコス。後世ノ人主曾テ誠ノ道ヲ不知只名聞利口ノタメニ他人ノツラネシ詞ヲ取テ己レカ心ノ思出トシ、若ハ心ヲツカラカシテ漸ク腰折ノ一句モ綴テハ千万タヤスカラサル様ニ云ナシテ我慢邪義ノ基トナレリ。此道ニ至テ道ヲ守リ武道ノ益トナラハ、歌ヲモヨミ詩ヲモツクリ管絃ヲモナシタマヘ。サレトモ公家ノ武家ワサ、武家ノ公家風、法師ノ在家業、在家ノ法師業、男ノ女ワサ、女ノ男ワサ、童ノ老婆ナレタル、上臈下々馴タル、是皆無益ノモノト見ヘタリ。

鵜鷹道遙猥ニ不可長事

凡鵜鷹道遙ハ民田畠之損亡多シ故ニイマシムル事也。

案曰、志道有トキンハ一向捨ヘキ事業ニアラス、武將タル人ハ如此之時節ハ兼テ山海川野ノ劍難ヲ見定メ要害善惡、或ハ掛引之場ニ心ヲツクル徳、又民ノ安危損益ヲ考ル徳、是等ノ旨ヲ心ニ懸テナストキンハ可也。然ルニ愚將ハ己カ樂ニ長シ民ノ苦ミヲハカラス、諸卒ノ痛ヲモカヘリミス、田畠ヲ踏損シ日々二人夫ヲ責使フ事ノミナリ。然ルトキンハ、益ニアラヌ損失多カルヘシ。

人主トシテハ賢人良臣ヲ用テ能諫メヲ可請事

凡主將之常ニ用所ハ、賢人譽レ有ヲ以テ国ヲ治メ身ヲ正シテ政道ヲ行ヘキ事ヲ伝ヘ、道理ニ叶フヤウニナスヘキ也。我心ニマカスルトキンハ禍トナルモノ也。案曰、天下国家ヲ治ル人主ハ、常ニ賢才譽有人ヲ見知テ、タトエハ奴卑雜人ナリトモ、能道理ニ叶私欲邪義ナラサル人ヲ挙用テソレノ役ヲ可任。舜ハ皐陶ヲ用、湯王ハ伊尹ヲ用、文王ハ太公望ヲ用ラレシ。是一々国民ニ心ヲ付テ憐事ハナリカタシ。サルニ依テ人ヲ撰テソレノ用ルヲ以テ良將ハ能人ヲ用ユト云也。

主將トシテハ賞罰ヲ可正事

凡一國一郡之司、況哉天下ニ至テ専ラ行フ所ハ賞罰正シキヲ以テ良將ト云云。

案曰、良將ハ最良ノ沙汰毛頭有ヘカラス。小科ヲ以テ大科ニ行事ナカレ。大科ヲモ小科ニ宥メ行フ事可也。又慈悲ニ心ヲマカセテ可罰ヲ不罰トキンハ却テ讐トナル也。然レハ国ニ科人多ク出来、後ニハ国ヲ亡ス基トナレハ可殺者ヲハ早ク科ニ行ヘルカヨシ。凡往古ノ法ヲ見ニモ、訟ヲ聞事兩方相争ニ目安口書ヲ以テ互ニ証ヲ定ル事ナリ。又其争ノ是非ヲ聞分明メテ五刑ノ罪ニ定ム、是五辭ニ聞五刑ニタ、スト云、或ハ罪ノ輕重ニ依テ其アタル科ニ行ヘキ也。亦十惡罪、一曰謀反、二曰大逆、三曰謀叛、四曰惡逆、五曰無道、六曰大欲、七曰不孝、八曰不睦、九曰不義、十曰内乱。此十惡ハ皆死罪ニアタル。今日本ノ名例律ニハ不睦ト内乱トヲ除テ殘ヲ八口ト名ク。名例律ハ文武天皇之時淡海公之作也。亦七殺トテ人ヲ損サス者ヲ又行フ法アリ。一曰劫殺、二曰謀殺、三曰故殺、四曰鬪殺、五曰誤殺、六曰戲殺、七曰過失殺也。此外ニ品々不量事ノ罪有。ヨク々奉行頭人ニ至ルマテ法ヲ出シ、或ハラシコムルカ或流スカ国所ヲ去シムルカ、又人ヲ殺者タリトモ其殺ス品ニ依テ過錢ヲ出サセテ其殺サレタル者ノ親類ニ与ヘテ其罪ヲユルス事モ其簡ハ人主或ハ奉行頭人ノ心得ニ有ヘシ。何事モ理ヲ責ルトキンハ、人ノ恨亦損スル所ナキモノナリ。サレトモ私欲邪義ノ人ハ非道有テ危シ。殺マシキ者ヲ殺シ、又可殺者ヲモ不殺。是ハミナ私欲貪リアル故ナリ。

一、諸臣任競望猥ニ不可授官位事

凡諸司位高カランコトヲネカウヘカラス。只心ノ賤キ事ヲ察シテ徳ノ高カラン事ヲ願フヘシ。其徳高シテ授ルトキンハ、礼法ミタレサルモノナリ。

案曰、夫官ハ礼ノタスケナリ。百官悉上ニ有テ下ヲ恵ヲ礼トス。下位ニ有テ上ヲ尊ヲ敬トス。礼盛則國王威重シ。將威有則士卒法ニ隨フ。官々タル則礼成、礼成則威成、威成則義成、義成則死成、死成則戰有利、戰利有則終ニ天下ヲ保ト也。亦官位ヲ授ルニハ其器量ヲ鑑テサツクヘシ。深智ナキ者ニ官ヲ授ルトキンハ、礼法ヲ乱シテ上ヲカシ位ヲ失フ。位ヲ失フトキンハ、下自アフル。サルニ依テ官位ハ智徳潤熟シタル人ヲ見計事肝要也。緞忠功有トモ道徳ナクハ必授ヘカラス。是ヲ諸主位官ヲネカヒ歎ク人多キカ故ニ官位ヲ上ヨリ不授トキ己カ心思ヲ悟ラシメン禁也。

一、天下之主將或ハ一國一郡之司タリトモ道ニアラサル新法ヲ不可立事

凡新法ハ邪佞奸曲ノ法、貪欲ナル故ニ立之。必新法渡ヲ立或ハ古法之定タル事ヲ改ヘキニ非ス。諸法ハ大概定ル事ナレハ也。

案曰、新法ヲ立成事一ツトシテ宜シキ事ニアラス。サレトモ世ノ為人ノタメトナラハ、新法ハイカホトモ可立。且又国々ニ新田畠ヲ發事多シ。是等ハ勘不勘ヲ以テ損益有ヘシ。タトヘハ本知十萬石ノ中ニワヒテ一萬石ノ新田ヲ發シ得ト

テハ、彼十萬石ノ人民苦勞シテコレヲナス。シカモ本田ノ民ヲ分テ新田ニ用ルナラハ、本田ノ害トナラン。サレトモ国人多ク田地スクナキニハ最益有。一萬石ノ新田ノ所徳ニノミカ、ハツテ、本田ノ衰弊ニ成事ヲ不知事アルヘシ。思慮ヲメクラシテ是ヲナスヘシ。

右九箇條者主將之心得最諸人之嗜共可成歟。其外教法有トイヘトモ聖經賢伝ニ讓テ略之。

臣下嗜之条々

、臣トシテ忠ヲ專ニシテハ君ニ仕、国家安全ナラン事ヲ可諫事

凡臣ハ水ノ如シ、君ヲ舟ニタトヘタリ、水正シキトキンハ舟ヨク載トナリ、然レハ正シキ心ハセヲ以テ君ニツカヘ君ノ不義ヲ可諫、イサメテ不用トキンハ怒スシテ義ヲ堅ク守テ己カ礼ヲ不乱柔ヲ用理ヲツクスヘシ

案曰諸臣ハ君ノ心ヲ察シ諸人ノ善惡ヲシラスハ臣ト云カタシ、或ハ君ニ忠ヲ尽サンニ私欲貪リヲ以テナストキンハ一旦其理ヲ得トモ終ニ其罰ノカルヘカラス、君ノタメ諸人ヲ貪ナラハ却テ君ニ讐ヲナス道理也、又君ノ不義不行ナリトモ臣ノ正シキヲ以テ是ヲ諫ルトキンハ君々タラン、若欺テ用タマハス却テ怒ルトモ退テ毎度モ可諫、暗君ニシテ清明ナラシメスンハ方便ノ必ヲ以テ亦陀人ノ道有人ヲ以テ諫ルカ如何様ノ諫ヲ以テ成トモ君ヲ君トセヨ、是ニモ不用トキシハ必國家ヲ去ヘシ、君ノ不義不行ヲ見テモ更ニ不諫ハ己カ身ヲカハヒテヘツ口ウ意ナラン、サアレハ臣ノ道ニ背キ不忠ノ者ナルヘシ、假ハ君ノ為トナラハ骨肉ヲ割トモ勇義ヲ變セサルヲ臣ノ誓トスヘシ、大概ハ君ヲ敬フニ似テ己カ私欲貪ヲナス族世ニ多シ

君之寵愛人ヲ不可嘲事

凡臣トシテハ主君ノ愛スル者ヲ誹ルハ必奸人佞人ノ類ニシテ君ニ説ヲ進メ入我意ヲ救ントスル者ナレハ大ヒニ可禁

案曰主君ノ愛スル人ヲ嘲ルハ非ナリ、又非義無道ナル者ナランニ一向其佞サシラクヘシニアラス、其者ノ器量徳有人善人ヲ以テ誹ルハ愚臣邪臣ト云ツヘシ、又如此人ヲ誹ルハ私ノ案ニマカセ善徳有人ヲ疑カ故也、臣タル人ハ假初ニモ心ヲツケ理非ノ穿鑿ヲ正シ諸卒ノ心ヲ補國家ノ安全ヲ計リ自ラ謙下慙懃ヲ專トスヘシ

孝ヲ以テ本トスヘキ事

凡孝ハ人心ノ本牀ニシテ天ヨリ命スル人ノ真性也、高下トモニ父母ヲ敬フハ道ヲ正スル至極也、立身行道揚名於後世顯父母之孝之終也ト云云

案曰聖賢之教法ニ孝ヲ物之道理之本トス、孝心ナカラン人ハタトヘ如何程道理ヲ明メタリト云トモ實ノ道ニアラス、孝徳正シキヲ人心ノ本トシテ行フトキンハ自然ト誓ヲトリ天命ニカナフ、忠臣必孝子ヨリ出ルト云リ、故ニ孝経曰夫孝

始於事親中於事君終於立身孝心之理難尽筆紙者也

一、神佛ヲ疎畧ニスヘカラサル事

凡上一人ヨリ下万人ニ至ルマテ神仏之正理ヲ信シテ尊敬イタスヘシ、タトヘハ己カ尊ハサル神仏タレハトテヲロソカニセハ其罰ノカルヘカラス

案曰神者人依敬増威人者神依徳漆運神ト云モ佛仏又神和光分身ナリ、武トシテ神道仏道之事ヲシラサルハ大愚ノ人ト古將モ禁メ置レタリ、サレトモ佛神ノ道法ニヨツテ不用有、如此次第ヨク考テ知ヘシ、若邪法ヲ以テ是ヲ尊マハ實佛心之正理ニソムキ國家敗亡之基也、不忠不義之人ト云ヘシ、只常ニ因果之二法ヲ觀シテ必忘ル事アルヘカラス

一、朝早く起テ夕部ニモ早可寢事

凡諸人ノ常ニ嗜ムヘキハ朝ニ早く起テ其日ノ用事ヲ朝飯前ニ調勤ムヘシ、夕部ニモ早く寢テ必夜深更ニ及マテ徒ニアソフヘカラス

右五箇條臣下之嗜縦ハ主君之法行ヲ以テ可孝智者也、凡前九箇條後五箇條者君臣諸民之教ヲ以テ四民共ニ准知ヘシ、先物ニ堪忍ヲ慎ミ夫婦之間ヲ和シ長幼朋友之口慎ミノ道理ヲヨク考知テ修ヲ止メ儉約ヲ用其分限相應ヲ以テ行ヘキ事也、是則聖賢之教ヲカル道也、此道理ニソムケル人ハ終ニ誹ヲ得ヘシ、愚拙ノ人ノ鑑トモナラント是ヲ綴テ教法之卷ト云云

教法之卷畢